

市のたつ街

交易からみた多民族の交流

**Towns with Markets: The Interaction of
Various Ethnic Groups from the Perspective of Trade**

西谷 大

はじめに

①調査地

②市の一日

③店からみた市

④商品からみた市

⑤買い手と売り手からみた市

⑥まとめと今後の視点

[論文要旨]

本稿では雲南省の紅河哈尼族彝族自治州の金平苗族瑶族傣族自治州で6日ごとに1回開催される市をとりあげ、市の仕組みを把握しつつ地域社会に与える影響を考察する。

調査地である者米谷の市の構造から浮かびあがってくる定期市成立の条件は、村民が売ることのできる余剰生産物を有していること、交通が不便で大消費地である遠距離の都会に自ら足を運べないこと、市に生産物を処理する機能があること、そして市ネットワークと商人の介在による商品の移動の必要性などが挙げられる。

定期市は国境や民族という枠組みに関係なく広がることが可能である。そして定期市は、地域社会を市ネットワークに取り込むことによって、地域の生産物や外から入ってくる生活必需品も掌握することが可能なシステムである。

中国周辺地域の歴史は、中国の影響をぬきには考えられない。それはおよそ2000年前に漢という統一国家が成立して以来連綿と続いてきた。しかし政治的な側面だけでなく、地域に即したミクロな視点でその影響の具体的姿を描こうとするならば、市のもつ特質と影響をも1つの要因として視野に入れることが、結果として中国周辺でおこってきた地域の変容の実態を明らかにすることにつながるのではないかと考えられる。

はじめに

本稿では、雲南省の雲南省紅河哈尼族彝族自治州、金平苗族瑶族傣族自治県の者米で6日ごとに開催される市について論じる。者米は中国という巨大な国からみれば、地理的にはヴェトナムまでおよそ10キロという国境を間近にひかえた辺境の町である。それだけでなく、政治的、経済的にも中国周辺に位置している。さらには民族分布からみれば、中国国民の92%を占める漢民族は少なく、タイ・ハニ・ヤオ・ジョワン・クーツォン・ミャオ・イ・ハーベイ族、そして漢族といった多数の民族が居住する地域である。

現在の市を研究対象としてきた研究分野の方向性について簡単にふれながら、者米の市を研究する目的について述べてみたい。マリノフスキーとデ・ラ・フエンテは、1941年にメキシコのオアハカ州で市の調査をおこなった。マリノフスキーは「市場は主要な経済流通機構である。市場を観察することによって、人びとがどのように自らの生産物を処理し、必需品を手に入れるかということが明らかとなる。市場は要するに、あらゆる地域、場所の経済の仕組みの縮図といえる」と、市を研究する目的を機能主義の立場から説明している〔マリノフスキー、デ・ラ・フエンテ⁽¹⁾1987〕。

本稿では中国の市を扱うが、中国における市の研究も戦前にまでさかのぼる。中国経済史の加藤繁、中国農業史の天野元之助、東洋史の増井経夫などが市の研究をおこなっている〔加藤1936、天野1940、増井1941〕。彼らの市に関する研究は、伝統中国における市の実態を把握することからはじまった。そして伝統中国の市は数ヶ村ごとにもたれている日雇い市から、県全体に及ぶ家畜市まで大小さまざまな市場圏が重なり合いながら分布していたことが明らかにされていった。その特徴として、国家の権力やある特定の団体が介在しないだけでなく極めて開放的であったことが指摘された。

中国における解放後の市の研究は、スキナーをぬきにしては語れない。彼は自ら四川省でおこなった市の調査に基づいて中国の伝統的定期市を詳細に分析し、市が規模によって階層性をもちつつ空間的に分布していると主張した。そして市の立地と分布を、距離と人口密度と交通手段などから説明しようとする歴史地理学の中心理論⁽²⁾によって解き明かそうとした〔スキナー1979〕。

スキナーによれば、中国農村の特質は「中国の農民は閉鎖的な世界に住んでいたといわれるが、その世界とは村落ではなく標準市場社会⁽³⁾のことである。農民の実際の社会範囲は、村の狭い境界線よりむしろ標準市場圏の境界線によって規定されている」と、伝統中国の農民の生活が市場圏によって規定されていると主張した。

しかし最近、アジア経済史を専門とする黒田明伸によってスキナーの説には反論が加えられている。黒田によると財の集散の動きに着目すると、定期市はあくまで流通のさまざまな節のどこかの1つにしかすぎず、市場圏といった経済的な空間は存在しないという〔黒田2003〕。そして伝統中国の市は行政機能の集権性の外観とは裏腹に、国家の権力とか閉鎖的団体によっても規制されず個々の経営者たちによって自由に形成されていたと説明する。

中村哲夫によれば、中国における現代の市研究には2つの方向性があると整理している。それは「資本主義列強が中国市場へ進出するにあたり、いかなる回路を通じて開港場から農村への経済的

支配を貫徹するのかという問題の解明に欠くことのできない研究対象である」「中国農村の農村研究に普遍的な分析視覚を提示すること」に集約されるという〔中村 1978〕。

中国における市の研究目的は漢族が住む地域の農村を中心とし、市のシステムを明らかにすることで中国農村の生活や経済の特質を解明することからはじまった。そして中国の経済システムの歴史を明らかにする上でも、重要な研究対象であるといえるだろう。

本稿は現在の市を研究対象としながらも、その視点はこれまでの市研究とは少し異なる。それは現在の民族事例を共時的調査することで、過去の国家周辺地域の変容する生活世界を復元し理解することを目的としている点である。

マリノフスキーは、現代の市を研究する意義について「歴史は、われわれの目の前で起こっているということ、そして現在の歴史は、時折曖昧な仮説を用い、不完全な資料に基づいて再構築される過去に引きずられるべきでないということをわれわれは明確に意識している。将来への道しるべのみならず、過去への完全な洞察力を獲得するために現在を調査するということが、われわれの定義する正しい歴史的方法なのである」と述べている〔マリノフスキー、デ・ラ・フエンテ 1987〕。

筆者は現在変容しつつある海南島リー族の生活世界そのものの過程をメカニズムとして理解し、生活における戦略を1つのシステムとして把握しつつ変容の過程を解析し、その結果を過去の事象にもあてはめ、歴史的な文化変容の枠組みを理解しようと試みた〔西谷 2003, 2004〕。

雲南省の西南部は中国という国家からみれば、政治的、地理的、歴史的に常に辺境に位置し、少数民族は国境とは関係なく、ヴェトナム、ラオス、タイ、ミャンマーなど東南アジアの国々と日常的に往来をおこなってきた。しかし政治的、経済的、文化的に中国という巨大な国家の影響を受けてきたのも事実である。

者米で生活する9つの民族は、言語、生業、風俗習慣がそれぞれ異なる。多民族が一つの谷で共存しながら生活していく上で、市はどのような役目をになってきたのだろうか。本稿では多民族間の取引の具体的な姿を、者米の市というミクロな視点から描くところからはじめたい。そのことが結果として人類が過去におこなってきた取引や交流の姿を描く、マクロな視点を提供することにつながるからである。

本稿の構成であるが、I章では調査地の概略について述べる。II章では者米の市の具体的な姿を一日の時間軸にそって素描する。III章では店の種類と分布に焦点をあてる。IV章では商品を中心に市を分析する。V章では「人」すなわち売り手と買い手の関係に注目する。VI章では調査のまとめと今後の市研究の方向性について述べる。

①……………調査地

(1) 位置・地形・気候

雲南省は、中国の西南部に位置する省である。面積は39.4万平方キロで、日本の総面積よりも広い。人口は4,287万人（中華人民共和国統計局の統計年鑑2002年による）で、そのうちおよそ3分の1は25の少数民族が占める。省政府の所在地は、昆明市である。雲南省には、少数民族が自治をおこなっている8つの自治州、29の自治県がある。調査地である者米拉祜族・老集寨郷は

行政区からみると、自治州の1つである紅河哈尼族彝族自治州（以下紅河州）の金平苗族瑤族傣族自治州（以下金平県）の西に位置する。金平県は昆明市からみればほぼ真南に位置し、その南側の県境がヴェトナム国境と接している（図1）。

雲南省の地勢は北高南低である。北西部はチベット高原に続く横断山脈が連なり、省内の最高峰である梅里雪山は標高6,740メートルを測る。この横断山脈を、西から怒江（サルウィン川の上流）、瀾滄江（メコン川の上流）、金沙江（長江の上流）という3本の国際大河川が北から南へ流れている。昆明市の標高は1,890メートルである。市の東部および南部には標高1,500～2,000メートルの高地が、雲南省だけでなく貴州省全域におよび、さらに湖南省と広西壮族自治区にまで広がる。これが雲貴高原である。高原上は起伏に富み、しかも石灰岩が広範囲に分布するため、それが溶解して作り出す路南石林（雲南）、黄果樹瀑布（貴州）、桂林の山水（広西）など奇岩怪石の美で知られる名勝地が多い。

気候は雲貴高原の雲南省側と、貴州省側では大きな違いがある。雲南省は西部からの熱帯モンスーンの影響で、その基本は熱帯であり「熱帯山地性高原」と呼ばれている。この熱帯モンスーン

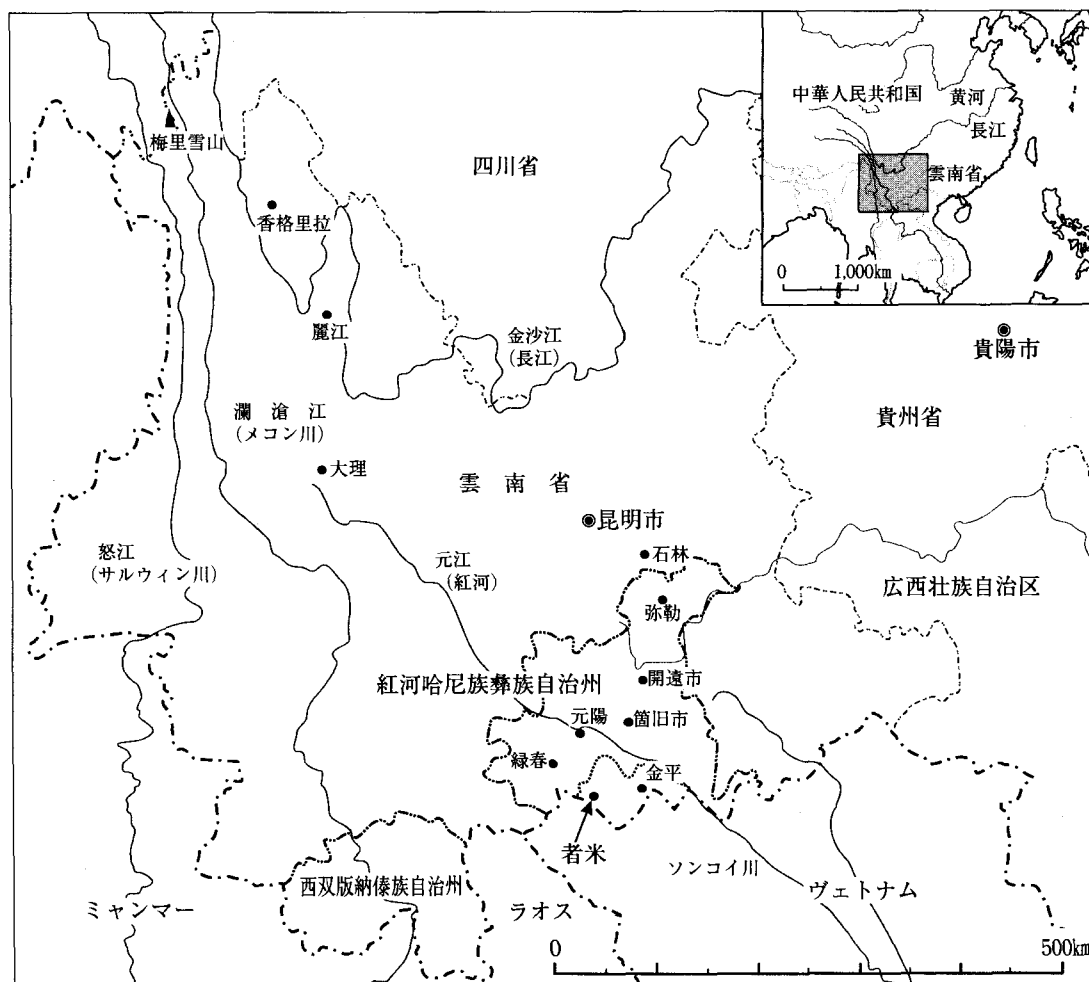


図1 調査地

が、雲南省と貴州省のほぼ境界線上で北方からの寒気団と接触し、「雲南気候前線—昆明準停滞前線」を形成する。この停滞前線の東側と西側の気候は著しく異なる。停滞前線以東の貴州高原では、冬季は雨が続き「空は三日続いて晴れることなし」といわれる。反対に停滞前線以西では、冬は温暖晴天が続く。例えば昆明市の7月の平均気温がおよそ20度というように、夏の気温は低く過ごしやすい。昆明市が「春城」といわれる所以である。

さて昆明市から調査地である金平県に向かうには、市の東南およそ80キロに位置する南路石林で方向を南に変え、省を南北に貫く国道326号を走って雲貴高原を南下する。途中の弥勒市（標高およそ1,300メートル）から箇旧市（標高およそ1,600メートル）までは距離しておよそ100キロあるが、その間に路南盆地（面積がおよそ111平方キロ）、弥勒盆地（面積がおよそ230平方キロ）、開遠盆地（面積がおよそ42平方キロ）といった高原盆地が連続して分布する。現地では高原盆地のことを「壩子」と呼ぶ。壩子は、省の南西部に位置する西双版纳傣族自治州や雲貴高原上に散在する。ちなみに雲南省における最大の壩子は昆明市周辺の滇池盆地で、その面積はおよそ1,071平方キロである。壩子の底は平坦で土層も厚く、古来農業が発達し人口が集中してきた。

鳥居龍藏は明治35年（1902年）に、貴州・雲南・四川省におけるミャオ・イ族に関する調査をおこなった。雲南省では11月26日に昆明を出発し東に道を取り、路南石林から南に向かい弥勒を通過して西に方向を変え、通海から北上し滇池の東側を通過して12月12日に昆明にもどっている。鳥居は弥勒周辺の壩子は水田が少なく、トウモロコシが主食であると報告している。現在では道の左右に水田や、換金作物であるブドウ、サトウキビなどを栽培する畑が延々と広がっている（写真1）。

雲貴高原を南下する道は箇旧を過ぎると、両側にイ族の見事な棚田が山頂付近まで広がる谷筋を一挙に下り紅河のほとりにたどりつく。雲貴高原に対面して、北西から南西に哀牢山系がよこたわる。高原と山系の間には、深い河谷を形成して流れるのが紅河である（写真2）。この河はヴェトナムではソンコイ川と呼ばれ、ハノイを通りトンキン湾へと注ぐ全長およそ1,200キロの国際河川である。鉄分を含んで赤みをおび、文字通りその河の色は赤黒い。ちなみに雲南省で最も低い地点は紅

写真1 8月末の弥勒付近。収穫しているのはコメ



写真2 左手が雲貴高原、右手が哀牢山系。その間を流れるのが紅河





写真3 北から見た者米谷。正面が大冷山(2,506メートル)。手前にみえるのはアールー族の棚田

河下流で、ヴェトナムとの国境の町である河口付近である。その標高はわずか76メートルにしかすぎない。

雲貴高原をほぼ真南に向かっていた道は、紅河の川岸に突き当たると川の西岸にそって東南へと向きを変える。兩岸の斜面は、森林がほとんどなくサバンナ状の景観が広がる。これはフェーン現象のため河谷の年間降水量が700ミリ前後と少なく、また乾期が7ヶ月と長期にわたり空気が乾燥し気温が非常に高いことが原因だといわれている。

川岸の道を車で2時間ほど走ると蔓耗鎮に到着し、紅河にかかった橋がみえてくる。金平県はヴェトナムと接する。そのため一般の人びとは、自由に出入りできない。県民以外は、県境を越えるのに政府発行の許可証が必要である。紅河を渡り金平県に入ると、道は哀牢山系の奥深くへと登っていく。この山系の地形が雲貴高原と異なる点は、壩子が発達していないことであろう。金平県の面積は、およそ3,686平方キロであるが、そのうち99.78%が山地で、平地面積は10.14平方キロと、わずかに0.22%にしかすぎない。村や町は、河谷沿いのわずかな平坦地か、または尾根上の比較的傾斜の緩い土地に作られる。金平県の中心である金平鎮は、標高およそ1,200メートルの山間に作られた人口およそ4万人の町で、周囲は標高2,000メートル級の山並みに囲まれている。昆明市と金平鎮との距離はおよそ570キロあるが、直通の交通手段は夜行バスだけである。昆明を夜8時出発すると翌朝6時に金平鎮に到着する。

さて調査地である金平県の者米拉祜族郷、老集寨郷は、金平鎮からさらに西におよそ100キロの地点にある。途中の勐拉からは、道が舗装されていない。そのため路線バスだとおよそ3時間半かかる。者米拉祜族郷、老集寨郷は、西北から南西に流れる者米川の河谷平野と、その南北に広がる

山地から成りたっている（以下この河谷平野と南北の山地をあわせて者米谷と呼ぶ）。者米川の南が者米拉祜族郷であり、北側が老集寨郷である。者米拉祜族郷の郷政府は下新寨におかれているが、この町は一般には者米（以下この名称使用する）⁽⁴⁾と呼ばれている。者米は漢語でジェーミーと発音し、タイ語の漢字表記である。本来はタイ語で「豊かな土地」という意味をもつ。一方の老集寨郷は老集寨街に郷の政府機関が所在する。

南北2つの郷をあわせると、東西およそ40キロ、南北およそ25キロの広さがある。河谷沿いの平坦な土地は、南北の幅がわずか2～3キロと狭く標高はおよそ500メートル前後である（写真3）。それに対して河谷平野の南北両側は、急峻な山地がせまがるが北と南でその地形が若干異なる。北側の老集寨郷では1,200～1,800メートルの山が郷全体に散在し、尾根は者米川に向かって南北に走る。者米川の南ではヴェトナムとの国境を区切る、2,000メートル前後の脊梁山脈が西北から東南へ屏風のように連なる。標高3,074メートルの西隆山は、ヴェトナムとの国境にまたがる金平県の最高峰である。

先ほど述べたように金平県は哀牢山系内に位置し、者米谷はこの山系の南側に位置する。乾期と雨期は明確で、11月から4月中旬までが乾期であり晴天が多く湿度は低い。この季節は、者米谷で霧がよく発生する。標高800メートル付近までを雲が谷を覆い尽くし、まさに「雲海の谷」となる。雲海は午前10時ごろにならないと晴れない。この特徴は省の西南部に位置する、別名「霧州」と呼ばれる西双版纳傣族自治州とよく似ている。

4月の下旬以降、熱帯モンスーンの影響を受け温度が高くなり降水量も増す。例えば者米谷のほぼ中央の河谷平野に位置する頂青（標高480メートル）では、最も暑い6月の平均気温が25.5度で、1月が最も寒く平均気温は15.5度になる。年間降水量は、およそ2,000ミリである。ところが同じ者米谷でも、標高1,160メートルの地点にある古聡大寨では、6月の平均気温が22度、1月の平均気温が12.4度と河谷平野と平均気温に3度近くも差がある。現地では「十里不同天（10里離れれば気候が異なる）」、「一山分四季，隔山又一天（一つの山でも季節は場所によって四季にわけることができ、ひと山越えればまた別の気候になる）」といわれるように、河谷平野と山地とでは気候の差が大きいことが特徴だといえる。

(2) 多民族の住む者米谷

1995年の統計によれば、雲南の少数民族の総人口はおよそ13,238,000人で、雲南省総人口の33.18%を占め、少数民族の人口は広西壮族自治区について中国第2位である〔謝1999〕。現在中国の56の公定民族（漢族を含む）のうち雲南省内において人口が4,000人以上で、しかも一定の集住がみられる民族は26を数える。さらに雲南省だけに居住がみられる少数民族は15に上る。⁽⁵⁾

者米谷には、タイ、ハニ、ヤオ、クーツォン、アールー、ミャオ、ジョワン、ハーベイ、漢の9民族が居住する。⁽⁶⁾ 者米谷を北西から南西に流れる者米川の南側が、者米拉祜族郷である。この名称が示すように、ラフ族の支族であるクーツォン族が多く居住する郷である。郷の人口は18,512人（2002年）を数えるが、そのうち5,525人がクーツォン族でありほぼ人口の3分の1を占める。クーツォン族以外に、タイ・ジョワン・ハニ・ヤオ・ミャオ・ハーベイ族が居住するが、それぞれの民族によって居住に特徴がある（図2）。者米谷の河川沿いの平地に居住するのが、タイ族とジョ

ワン族である。村の規模は600戸前後と大きい。者米谷で路線バスや一般の自動車の通行可能なのは、者米川南岸を走る公道だけである。タイ・ジョワン族の村は、公道沿いで山から流れる河川が者米川に合流する地点に立地している。

タイ族は、河川沿いの平地を水田にして二期作をおこなう。また河川敷も水田だけでなく、トウガラシ畑などにして利用している。かつては河川での漁撈も盛んだった。そして南側に広がる山の斜面の標高およそ800メートル付近まで、パラゴムの植林をおこなっている。それより高い尾根上や山の斜面に、ハニ・ヤオ・クーツォン族が居住している。

このうちクーツォン族は従来焼畑と狩猟採集を生業とし、しかも毎年耕作場所をかえるため村ごと移動するという移動型焼畑農耕民だった。現在は政府主導のもとでおこなわれている「扶貧政策」によって、従来の居住地域だったおよそ1,500メートル以上の山地から1,300メートル以下の尾根上の土地に移住させられ、棚田による水田耕作をおこなっている⁽⁷⁾。ハニ族とヤオ族を比較すると、ハニ族の村は、およそ800~1,000メートルの範囲に分布するのに対して、ヤオ族はおよそ1,000~1,300メートルの間に居住する。いずれも現在は、棚田による水田耕作が生業の中心である。

者米拉祜族郷内のハニ・ヤオ・クーツォン・ミャオ族を平面的な分布から見ると、ハニ族の村は、郷の西部と東部に集中する。その間にはさまれるように、クーツォン族の村が分布する。郷内にお

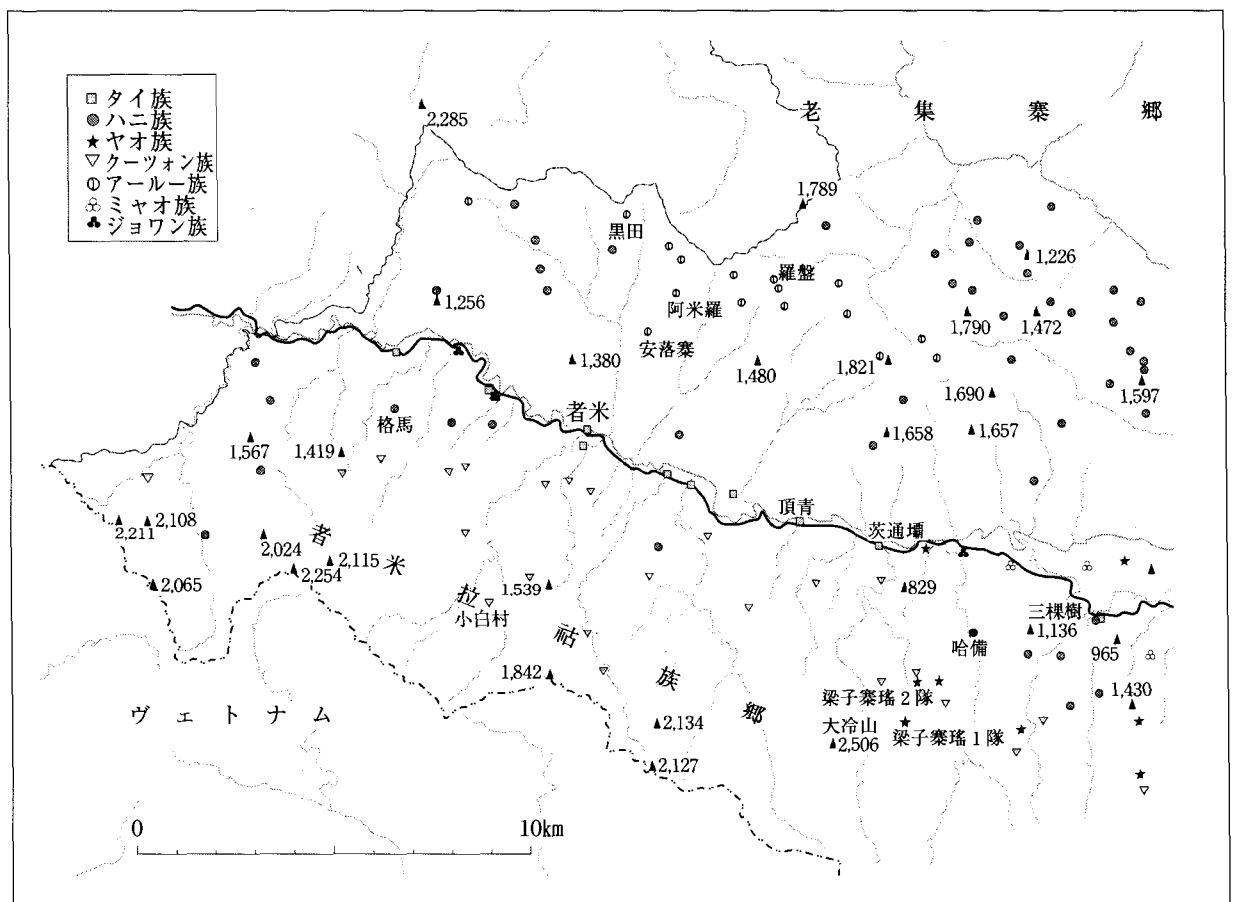


図2 者米谷の民族分布

けるヤオ族の村は6村と少ないが、いずれも郷の東部に村が集中する。郷内のミャオ族が居住する村は3村と、8民族のなかで最も人口が少なく、郷の東端に位置する公道沿いに村がある。ハーベ⁽⁸⁾イ族の村は、郷の東より小翁耜川を2時間ほどさかのぼったところにある。ハーベイ族が居住する村は、この1カ所である。者米川の北側が老集寨郷である。この郷には、ハニ族とアールー族が居住する。南の者米拉祜族郷と同様にハニ族は西部と東部に分布し、それにはさまれるようにしてアールー族の村が散在する。このように者米谷の民族分布は、ハニ族が西部と東部に住むものの、その中間地域では川の北側と南側とでは居住する民族に違いがみられる。

②……………市の日

者米谷の調査は、2003年3月11日～3月19日、同年8月25日～9月12日、同年11月5日～12月25日の3回にわたっておこなった。市は6日ごとにたつ。この期間内で実際に者米の市の観察調査をおこなったのは、3月14日、8月28日、11月15日、11月21日、11月27日、12月9日の計6回についてである。このうち11月と12月に開催された4回の市について、店や商品、それに人の動きといった方法から市の調査をおこなった。またこれから述べる市の素描も、やはり主としてこの4回の市の観察によっている。

者米は北西から南東に走る公道沿いで、者米川に南から流れ込む納耜川との合流点にできた町である。町は道路の北と南に広がっているが、市は公道とほぼ直角に交わり、南へとのびる道路を中心にして6日ごとに1回開催される(図3)。この南北の通りを「本通」と呼んでおく。本通は南におよそ350メートルほどのびるが、その南端に公所(郷政府の建物)がある。

本通を30メートルくらい入ったところで、西に折れる道がある。この道は逆コの字形で、100メートルくらい南にいくと再び本通にでる。ここもまた市が開かれる通りであり、「横通」と呼んでおく。本通と横通の両側には、雑貨、衣料などの商品を販売する店舗や食堂などの常設店が立ち並び、市が開催されない平日でも営業している。しかし普段の日は、店に客の姿はほとんどなく閑散としている。店の主も暇そうに、雑談、マージャン、トランプで時間をつぶすという風景がめだち、開店休業といった印象が強い。

本通は、コンクリートで舗装された幅20メートルもある立派な道路である。市の日はこの両側に300店近い露店が立ちならび買い物客で混雑するのだが、平日は人通りもまばらだ。そのため乾期がはじまる11月からは町住みの農民が道の半分を占拠して、収穫の終わった籾米やキャッサバなどを道に丁寧に広げ乾燥させている(写真4)。

市がたつ前日の午後ぐらいから、町はどこか活気づいてくる。遠方から来る村人のなかには、前日の夜から知り合いの家に泊まるものもいる。そのため前日の夕方になると本通の食堂では、普段町でみかけない、毛糸のボンポリをかぶったヤオ族の若い娘が食事をとっていたりする(写真5)。では次に市の日を、時間の推移にしたがって素描してみよう。

a 6時～8時

市の朝は早い。当日の6時前には、何台ものトラックが本通に乗りこんでくる。荷台には大きなビニールの袋や段ボールに入れた商品を山積みし、側面には長さ2～3メートルのタケを何十本も



写真4 平日の者米の本通り。収穫した籾米を乾燥させている。



写真5 ヤオ族の女性。毛糸のボンポリを被っているのが、15~16歳までの少女

くくりつけている。トラックは、本通の南の端から順に荷物とタケと人を道路わきにおろしていく(写真6)。11月の朝6時といえば、まだ夜が明けていない。暗闇のなかでトラックからおりてきた男女が自動車のヘッドライトか懐中電灯を頼りに、手際よくタケを組み立て台にして商品を並べていく。品物は衣料品や靴、それにトイレトーパー、ちり紙、懐中電灯、豆電球、ボールペン、櫛、ライター、キャラメル、トランプ、化学調味料、インスタントラーメン、シャンプー、マッチ、塩、洗剤などの日用雑貨である。

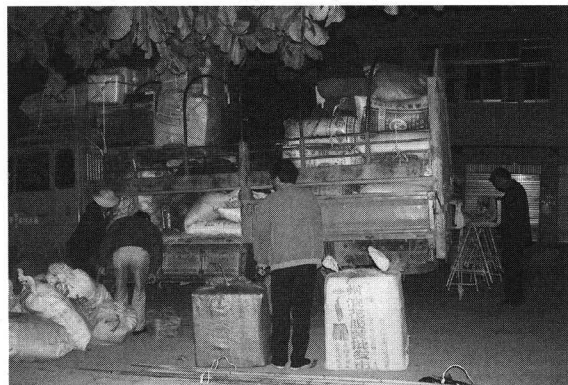


写真6 トラックから商品をおろす行人

常設の商店も店の前面に台を広げ、服、靴、フトン、ポリバケツなどの日用雑貨を並べはじめる。市の日は、常設店が露天商に早変わりする(写真7)。食堂の朝も早い。本通や横通の食堂は、平日は客が少ないため昼食から営業するところが多い。ところが市のたつ日は6時前には店を開け、市に集まってくる人びとの朝食をあてにして仕込みの準備に入る。炒めものに使うブタ肉を細切りにし、野菜を洗い、味をよくするために豚足はガスバーナーで焼き大鍋で煮る。米線は、安くてボリュームがあり人気がある。どこの食堂も、米線を大量に仕入れて洗面器に山盛りにしてある。

市の日には、日用雑貨だけでなくブタ肉、鮮魚、それに野菜、果物などの青果を扱う露店もたつ。こうした生鮮食料品の露店は横通に集中する。6時をすぎるとタイ族の女性が、トラックで運びこまれたトウガラシ、ピーマン、セロリ、ジャガイモや、リンゴ、ミカンなどの青果を、道路にゴザやビニールシートを敷いて並べはじめる(写真8)。

タイ族の女性が場所を占拠し終わったころ、アール族の女性が重たそうな籠を背負い、走りながら横通にかけこんでくる。しかしそのころには道路に面した条件のよい場所は、すでにタイ族の露店に占められており、しかたなくその後ろの歩道側に店を広げざるえない(写真9)。彼らは者米から歩いておよそ3時間かかる、老集寨郷内の村からやってくる⁽¹⁰⁾。夜明け前に出発し、月や星明か

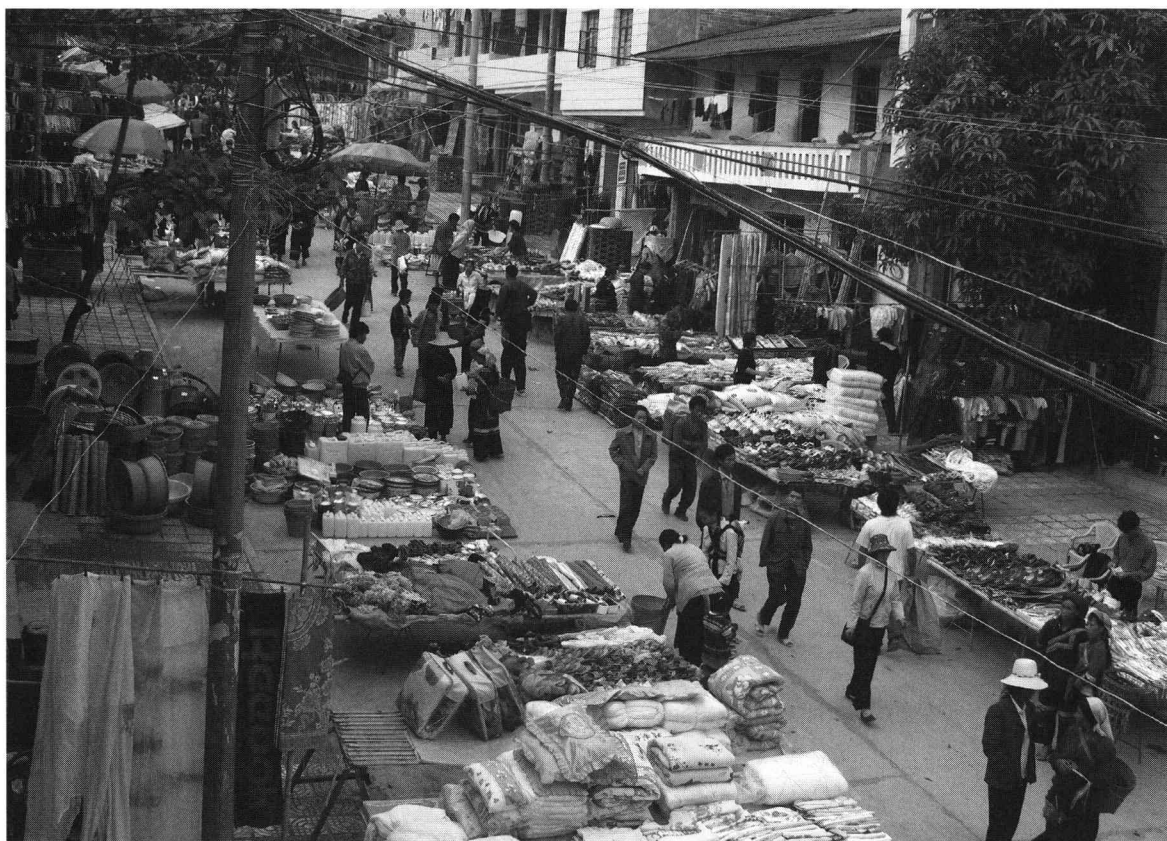


写真7 常設店の前の露店

りを頼りに山道を急いでも、市に6時前に到着するのは無理だという。

野菜の売り手の多くはタイ族とアール族の2民族が中心なのだが、アール族が売っている青果は、青菜、ヘチマ、ニラ、モヤシなどであり、タイ族の露店とは品揃えにかなりの違いがある。

ブタ肉を販売する露店は、6時にはすでに開店し営業をはじめている(写真10)。青果の露店で品物を売るのが女性なのに対して、肉を売っているのはほとんどが男性である。朝一番に肉を買っているのは食堂の主人たちであり、料理に使う肉をまとめ買いしている。

6時30分、公道と本通が接する市の入り口付近にでかけると、すでに買い物客を乗せた乗り合いトラックがハニ族を乗せて到着していた。数人の女性たちが大きなビニール袋と空の背負い籠をかかえて、市のたつ本通ではなく町はずれに位置する店まででかけていく。袋の中身は綿だ。彼女たちは綿を仲買する店で現金に換えると、空の籠だけのかついで本通へと向かっていった。

b 8時～11時

買い物客が市に本格的に集まりだすのは、8時を過ぎてからである。周囲の村から市にやってくる人びとの交通手段は、乗り合いバス、市の日だけ走る臨時の乗り合いトラック、トラジー⁽¹¹⁾、バイク、そして徒歩である。いずれの手段をとるにしても、大半の買い物客は市がたつ本通の北の端の辻から市に入る。そのため8時をすぎると、本通の北の端は車と人で大混雑におちいる。

者米谷に住む民族のうち特に女性は、現在も民族固有の色あざやかな衣装を日常的に着用する。⁽¹²⁾



写真8 野菜を並べるタイ族の女性

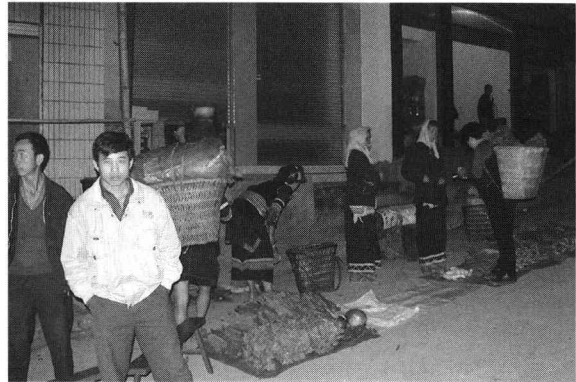


写真9 タイ族の野菜売り場の後ろに露店を広げるアール族の女性

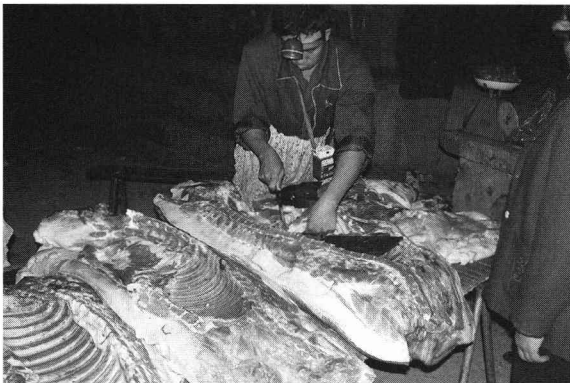


写真10 朝の6時には開店しているブタ肉の露店



写真11 ハニ、ヤオ、ミャオ族が乗った乗り合いトラック

そのためハニ、ヤオ、ミャオ族などの民族衣装をまとった女性たちを、荷台に乗せて運んできた乗り合いトラックは、あざやかな衣服がいりまじり華やかで美しい(写真11)。少数民族が多く居住する雲南省でも、未だにこれほどまでそれぞれの固有の民族衣装を普段着としている地域はそう多くはないだろう。

市の入り口の反対側の道路もまた市の一部である。ここではニワトリ、ダックとそのヒナ、それに子ブタなどが売られている。市のなかでも、最もにぎやかな場所の1つである。ダックやニワトリのヒナの鳴き声と、子ブタの悲鳴に近いような叫び声に加えて、売り手と買い手の交渉がまたにぎやかだからだ(写真12)。自分の家で飼っていたニワトリを、1羽だけ手にぶら下げ売っている村人もいる。彼らは専門の商人ではないので、さお秤を所有していない。そのため買い手のなかには、自らさお秤を持ち歩き、ニワトリの重さを量り売り手の村人と値段の交渉をしている場面もみられる。

ヒナは、重さではなく1羽単位の値段で売られている。価格は交渉次第で上下するので、買い手と売り手が激しく掛け合う。1羽の値段が決まると、買い手は品定めして籠から気に入ったヒナを選び出す。若い女性もスカートの裾をまくり上げ、とにかく元気よさそうなヒナを見つけるため必死である(写真13)。



写真12 子ブタの露店



写真13 ニワトリのヒナを選ぶタイ族の女性



写真14 午前11時。買い物客がもっとも多く、市のピークである。



写真15 横通のタイ族とアールー族の青果を売る露店

c 11時～12時

11時ごろが買い物客の出入が最も多く、市場のピークを迎える(写真14)。横通を入った30メートルあまりの区間は、道の両側にタイ族とアールー族の青果を売る露店が並ぶ(写真15)。両者は扱っている青果の種類がかなり異なるのだが、売る方法にもまた違いがあるようだ。タイ族の露店は、果物にしても野菜にしてもさお秤を使い、1斤(500グラム)単位に値段をつけた量り売りである(写真16)。ところがアールー族は、さお秤をもたず青菜などの野菜を束にして、一束1元という売り方だ(写真17)。モヤシはくくって束にはできないので、お碗一山を単位にして、0.5円で売っている(写真18)。

このころになると野菜を売っているアールー族相手に商品を売ろうとする、露店をもたない移動販売の姿が目につくようになる。藍染めの布を商うハニ族の女性である。彼女たちは背負い籠に売り物の布を入れて市を歩き、野菜を売っているアールー族の女性に声をかける。女性の買い物は時間がかかる。ハニ族が持ちこんだ藍染めの布を、数人のアールー族の女性が品定めに熱中するあまり、本業の野菜売りはそっちのけということもある(写真19)。支払いは現金が多い。しかし売り物のトウガラシなどの野菜と現金を組み合わせで支払う場合もある。「半物々交換」とでも呼べそうなやりとりだ。

市の移動販売は、ハニ族だけではない。クーツォン族は背負い籠につける、籐で編んだ肩ひもを



写真 16 さお秤を使って量り売りをするタイ族の女性。右側の買い物をする女性もタイ族



写真 17 アールー族の野菜を売る露店。一束単位で野菜を販売する。

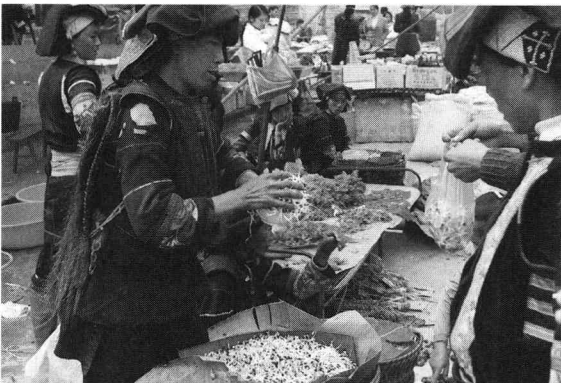


写真 18 アールー族のモヤシを売る露店。お碗一山単位で販売する。



写真 19 右が藍染めの布を売るハニ族の女性。左がそれを品定めする野菜売りのアールー族

売り歩いている（写真20）。道路に露店をだす場合には、政府に場所代を支払わなくてはならない。ところがこうした移動販売は、場所代を支払っていないようだ（写真21）。

横通をそのまま進み左に折れたあたりが、ブタ肉および魚の売り場である。ブタ肉売り場だけは、高さ1.2メートル程度の立派なコンクリートの台がしつらえてある。台の後ろに売り手がひかえ、いずれも1人が1頭まるごとのブタをさばき、全部の部位を1日で売りはらう。肉屋はブタ肉を1日で売り切る必要があるため、客をさそう声も大きい。

本通に出るとその両側には、露店がおよそ120メートルにわたってずらりと並ぶ。衣料、靴などの特定の品揃えだけをした専門店もあれば雑貨店も多い。どの雑貨店も同じ品揃えに見える。しかし買い物客は、各店を丁寧にみながら目的の商品を探している。どうやら店によって品揃えが微妙に違うらしい（写真22）。

こういった専門店や雑貨屋にはさまれるようにして、葉タバコ、酒、ライター（写真23）などの商品を販売する店や、マントウ、蒸した糯米（写真24）、炭火で焼いた臭豆腐（写真25）などを売る飲食店、それに時計の修理屋などが露店をだしている。者米谷では巻きタバコよりも、むしろタケ筒を使った水キセルが好まれる⁽¹³⁾。露店では何種類かの刻みタバコが、四角柱形に固めてある。タバコの葉も重さに応じた量り売りである（写真26）。客は、店が準備した水キセルで試しに吸うことができる。客のなかには刻みタバコも買わずに、次から次へとタバコ店を渡り歩き、無料で試飲のはしご



写真20 背負い籠の肩ひもを売るクーツォン族の夫婦

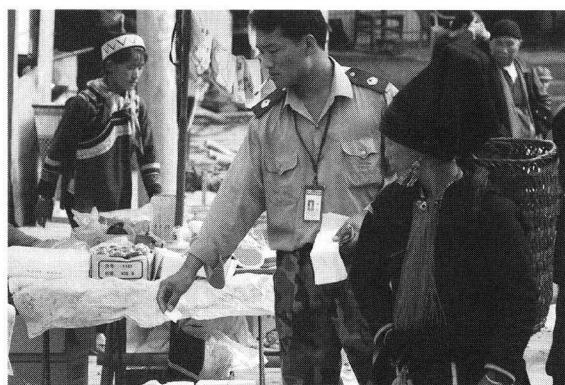


写真21 政府の係員に場所代を支払う様子



写真22 本通の雑貨店



写真23 ライターを売るクーツォン族の男性

をしている客もいる。

露店の酒屋の酒は、ポリ容器に入れてありこれも量り売りである(写真27)。トウモロコシで醸造した白酒(蒸留酒)で、アルコール度数は30~40度と高い。酒屋もかなり気前よく試飲させてくれる。女性たちはこまめに買い物をしているのだが、一部の男連中は買い物はそっちのけでタバコや酒の試飲を楽しんでいる。

本通の入り口から150メートルくらい進むと、ワイシャツ、ズボンなどいわゆる洋装を扱う露店が立ち並ぶ(写真28)。ところが本通の雑貨店や青果を扱う横通と比較すると、それほど混雑はない。むしろ藍染めの布地や服の縫い取りをするための糸、それに飾りに使う毛糸を売っている露店に、ヤオ・ハニ・アールー族などの女性たちの人だかりができている(写真29)。それに都会で流行っているジーパンなどの既製服を売る露店よりも、本通の南の端に店をだしているハニ風の既製服専門店は、いつも大混雑で売っている服がみえないほどである(写真30)。

さらに本通を南下し政府の役所が入っている建物付近になると、鉄格子のはまった店にすさまじい人だかりができています。タイ・ハニ・ヤオ・アールー族などの民族の違いは関係がない。来年春に植えるハイブリッド米の種籾を、争って買っているのだ。

d 12時~14時

12時を過ぎると、早くも市のピークは過ぎ、本通の客足が次第に減ってくる。かわりににぎ



写真24 蒸した糯米を売るタイ族の女性



写真25 焼いた臭豆腐を販売する露店



写真26 刻みタバコの葉を売る露店。左の男性2人は、刻みタバコの試飲をしている。



写真27 酒の露店販売。ポリタンクに酒が入っている。酒は量り売りである。

わってくるのが、露店の後ろに店を構えた常設の食堂である。周辺の村からやってきた、ハニ・ヤオ・アール族などの村人が、同じ食堂内で食事をとっている（写真31）。

男はたいてい、仲間たちや市で出会った知り合いと酒を飲んで大騒ぎしている。女性たちは、互いに買った品物をみせあいにぎやかだ。ところが異なった民族同士の会話は、まったく聞こえてこない。食堂にいる人びとは、ほとんどが買い物客で、民族衣装から判断するとハニ・ヤオ・ミャオ・クーツォン族が多い。ところが露店商の野菜の売り手は、タイ・アール族などである。また藍染めの布売りはハニ族に限られている。どうやら民族によって売り手と買い手がわかれ、しかも扱っている商品の種類に違いがあるらしい。

昼を過ぎると、町の外からやってくる衣料や雑貨の露天商は、そろそろ店じまいに入る。このころから市は、急速に収束へと向かう。14時を過ぎるとハニ・ヤオ・ミャオ族は、市からほとんど姿を消す。しかし市は、完全に終わったわけではない。人影がまばらになった横通では、午前中は果物や野菜を売っていたタイ族やアール族の女性が、今度は売った儲けで、反対に買い物客に早変わりする。強気だった肉屋も、残った肉を売り切ろうと焦りはじめ、ディスカウントをはじめる。客の値引き交渉も、肉屋のあしもとをみて厳しい（写真32）。

例えば脂身の肉を、1斤につき3.0元と午前中より0.5元値下げしている。しかしそれ以上はなかなか下げようとしない。なんとか売りさばこうとして10グラム程度の肉をサービスする作戦に



写真28 衣料を販売する露店。左の刺繍を施したズボンをはいているのはヤオ族の女性。右手の女性と男性はタイ族



写真29 装飾につかう毛糸を選ぶアールー族の若い女性



写真30 八二風の既製服を売る露店



写真31 食堂内の様子。手前が八二族。奥に座っているのがヤオ族

でる肉屋もいる。

この時間帯で最も混雑しているのは、本通の北端の辻付近である。村に帰る人と、客待ちの乗り合いトラックやトラジー、それに露店が入り乱れ大混雑になる。特にサトウキビは、おみやげとして人気が高い(写真33)。2メートル近いサトウキビは、地面にそのまま並べて売られている。このままだと背負い籠には入らない。そこで何本かに折って持ち運びやすくする。なかには売り手が他の客に対応している隙をねらって、そっともう一本勝手に取り出して素早く折り持ち帰ろうとする客もいる。そして店の主人に見つかり、ケンカぎたになるといった小事件もままみうけられる。

e 14時～16時30分

14時を過ぎると衣料や雑貨の露店は、ほぼ店じまいを終えている。本通も横通も、一日の喧噪の後でゴミだらけだ(写真34)。最後に残ったのは、横通の果物売りである。客は中学の生徒が多い。者米拉祜族郷では、中学校が者米にしかない。山間部出身の生徒は、日帰りでの登下校は不可能である。そのため寄宿生活をしながら勉強をしている。彼らのおやつになるのだろう、売り手もおまけしてかなり安く売ってくれる。

15時30分を過ぎると、本通の南端から政府に雇われたアールー族の男女4人が通りの掃除をはじめ。それにつれて客もいないのに店をまだ開けていた露店も、撤収を余儀なくされる。そして本通の北端まで大量のゴミを集め終わるおよそ16時30分ごろ、市は完全に終了する。



写真 32 プタ肉の値段交渉をするアールー族の女性



写真 33 サトウキビを売るタイ族

③……………店からみた市

(1) 店の種類

市の日に営業している店は、平日でも開店している常設店と、市の日だけ路上に店をだす露店の2つに分類することができる。常設店は80店あり、11月15日にたった市では293店の露店がでた。

常設店は、食品を中心とした雑貨(8店)(ビール、白酒、駄菓子、缶詰、インスタントラーメンなど)、生活用品を中心とした雑貨(13店)(金物、靴、糸、針、タオル、寝具など)、衣服を中心とした雑貨(20店)、酒(1店)、電化製品(2店)、農業資材(1店)、靴(2店)(オーダーメイド)、家具(1店)、飼料・肥料(4店)、薬(2店)、それに食堂(15店)、さらには写真屋(1店)、カラオケ(1店)などのサービス業に分類できる。また綿、キャッサバ、レモングラス、草果を買い取る仲買業者が各1店ある(表1)。

常設店の経営者は漢族とタイ族であり、他の民族はいない。このうちタイ族の店は7店と、漢族の73店と比較するとはるかに少ない。露店は特定のカテゴリーの商品の売買や、サービスをおこなう専門店(227店、77%)と、雑貨店(66店、23%)の2つに大きく分類することができる(表2)。専門店は便宜上、生活用品、食品、嗜好品・趣味、衣料品、サービスの5つに分類した。このうち食品関係の露店が最も多く128店と全体の47%を占める。以下生活用品関係(53店、18%)、嗜好品・趣味(27店、9%)、サービス(5店、2%)、医療品(2店、1%)という比率である。

食品を扱う露店は、商品の内容から8つに分類した。その内訳は、野菜(63店、21.5%)、果物(24店、8.2%)、肉屋(15店、5.1%)、飲食店(20店、6.8%)、食材(9店、3.1%)、魚屋(3店、1.0%)の順である。生活用品を扱う露店も、商品の内容から、11分類した。その内訳は、衣料(31店、10.6%)、靴(7店、2.4%)、ライター(2店)、金物(2店)、布(1店)、文房具(1店)、洗面・風呂(3店)、台所(3店)、玩具(1店)、ビニールテーブルクロス(1店)、寝具(1

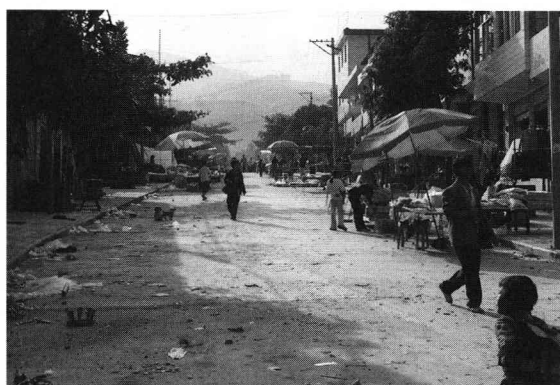


写真 34 市終了間際の本通

店」という順になる。以下、家畜販売、タバコ（17店）、酒（6店）、音楽テープ・CD・VCD（4店）などの嗜好品・趣味に関わる店となり、合鍵（1店）、時計修理（4店）のサービス、医療品（2店）を扱う店がこれに続く。

露店の形態によっても分類が可能である。露店は商品の売り方から、地べた売り・台売り・吊り売りの3タイプに分類することができる。地面にビニールやゴザを敷き、その上に商品を並べて売るのが、地べた売りタイプである。棚を作って商品売るタイプには、台売りタイプと吊り売りタイプに分類することができる。台売りタイプは、タケでおおよそ4×2メートル、高さ1メートルの台を作り、その上で商品を並べる。吊り売りタイプは、高さおおよそ2メートルのタケで店の三方を囲み、そこに商品をぶら下げて販売する方法である。

地べた売りタイプは、野菜、果物などの食品を専門に販売する露店に多い。売り手のほとんどは、市のときにしか店を開けない。台売りタイプは、食品を売る露店にもみられるが、特に雑貨店や生活用品を扱う専門店で多い。吊り売りタイプは、衣料品を扱う露店の形態である。これは商品である服という性格上、ぶら下げることによって、商品を狭い面積で広げつつ、多くの種類を客に見せる必要があるためであろう。町の外からやってくる行商の場合は、台売りタイプも吊り売りタイプも、それに使う台はトラックにくくりつけて運び込みその場で組み立てる。一方町住みの露店商は、

表1 常設店の分類

分類	店の名称	店数	%
日用品	日用品中心の雑貨	13	16.3%
	衣料中心の雑貨	20	25.0%
	飼料	4	5.0%
	金物	4	5.0%
	電化製品	2	2.5%
	農業資材	1	1.3%
	靴	2	2.5%
	家具	1	1.3%
	スレート（屋根材）	1	1.3%
食料品	食品中心の雑貨	8	10.0%
	酒	1	1.3%
薬	薬	2	2.5%
飲食店	食堂	15	18.8%
サービス	カラオケ	1	1.3%
	写真屋	1	1.3%
仲買	レモングラス仲買	1	1.3%
	キャッサバ仲買	1	1.3%
	綿仲買	1	1.3%
	草果仲買	1	1.3%
	計	80	100.0%

表2 露店の分類

分類		店数	%	
雑貨店	雑貨	66	22.5%	
	衣料	31	10.6%	
専門店	靴	7	2.4%	
	洗面・風呂	3	1.0%	
	台所	3	1.0%	
	ライター	2	0.7%	
	金物	2	0.7%	
	布	1	0.3%	
	文房具	1	0.3%	
	玩具	1	0.3%	
	ビニールテーブルクロス	1	0.3%	
	寝具	1	0.3%	
	食品	野菜	63	21.5%
		果物	24	8.2%
		肉屋	15	5.1%
		飲食	20	6.8%
		食材	9	3.1%
	嗜好品・趣味	魚屋	3	1.0%
		タバコ	17	5.8%
		酒	6	2.0%
	医療品	音楽テープ, CD, VCD	4	1.4%
		薬	2	0.7%
サービス	合鍵	1	0.3%	
	時計修理	4	1.4%	
家畜販売	家畜販売	6	2.0%	
	計	293	100.0%	

表3 露店一覧

店番	分類	商品	経営者の民族名
1	衣服	子供服	
2	衣服	大人服	
3	衣服	子供服・ズボン	
4	衣服	大人服	
5	衣服	大人服	
6	衣服	ズボン, 上着 (多)	
7	衣服	下着, ブラジャー, 布	
8	衣服	ズボン, セーター	
9	衣服	ズボン, セーター	
10	衣服	ズボン, セーター, パンツ (男女), ブラジャー	
11	衣服	大人服	
12	衣服	大人服	
13	衣服	ブラジャー, パンツ (男女)	
14	食品	マントウ (蒸し器で蒸し販売)	
15	タバコ	刻みタバコの葉	
16	時計修理	時計の修理	
17	靴	スリッパ	
18	不明		
19	食品	マントウ売り (蒸し器で蒸し販売)	
20	雑貨	クシ, 手鏡, 電球, 歯磨き粉, 糸, 駄菓子, マッチ, 電池, 石けん, ライター, 布	
21	不明		
22	タバコ	刻みタバコの葉	
23	雑貨	洗剤, ペン, 漬け物, マッチ, タバコ (箱), ビスケット, 電球, コシヨウ	
24	不明		
25	衣服	子供服	
26	靴	スリッパが中心	
27	タバコ	刻みタバコの葉	
28	雑貨	マッチ, ライター, 電池, 漬け物, オモチャ, 生理用品, 駄菓子, ソーセージ, 糸, タバコ (箱)	

店番	分類	商品	経営者の民族名
29	靴	スリッパ (大人用と子供用), 木綿糸	
30	酒店	トウモロコシの白酒	
31	食材	コンニャク, 豆腐, 臭豆腐, 乾燥米線, 涼粉	
32	雑貨	刻みタバコの葉, クシ, 髪留め, 毛糸 (装飾用), 電球, 電池	
33	雑貨	髪留め, 電球, ビスケット, 電球ソケット, 糸, かゆみ止め香油, 歯ブラシ, 化学調味料, 砂糖, クシ, タオル	
34	雑貨	南京錠, ボールペン, 電球ソケット, 時計, タイガーバーム系統, 爪切り, カミソリ, ラジカセ, 携帯ラジオ, バックル, テープ, 洗濯ブラシ, 石けん, ファスナー, ベルト, 靴, 計算機, 軍手, 電球	
35	嗜好品	タバコ (箱), ライター, ライター用ガス	
36	食材	豆腐, 乾燥米線	
37	風呂・台所	ポリタンク, ヤカン, 鍋, スプーン, ヒシヤク, 魔法瓶, ガラスコップ, ホーローコップ, 洗面器	
38	靴	スリッパ, 長靴, サンダル, 運動靴	
39	衣料	パンツ (男女), 反物 (柄もの), 毛布, 布団	
40	風呂・台所	ポリバケツ, 洗面器, アルミヤカン, ガラスコップ, ヒシヤク, 魔法瓶, 蒸し器	
41	風呂・台所	ホーローコップ, ハンガー, ポリタンク, ヤカン, 鍋, プリキバケツ, ポリバケツ, アルミ洗面器, ヒシヤク, レンゲ, 水筒 (お茶入れ), アルミヤカン, タライ	
42	雑貨	帽子, パンツ (トランクス), タオル, 反物 (柄もの), ロープ, 髪留め, 靴中敷き, スリッパ, サンダル, 靴	
43	雑貨	ノート, 石けん, 靴下, パンツ (男女), ベルト	
44	雑貨	靴, スリッパ, 布団, 服 (迷彩服), トラップ (大, 中, 小), スコップの先, ツルハシの先, 電球ソケット, コンベックス, 電池, 蛇口, ベンチ, 時計, 延長コード, ラジカセ, 懐中電灯, 傘, セロハンテープ, 包丁, ベルト, フイゴ (手回し), クワの先, コテ, チリトリ, 金ばさみ (練炭, 炭火用), ラジカセ, 電気コード	
45	雑貨	ガラスコップ, ポリタンク, ヒシヤク, スプーン, オタマ, ホーローコップ, ホーロー碗, 鍋, ヤカン, 魔法瓶, バケツ, タライ, 洗面器, プラスチックザル, バケツ	
46	玩具	おもちゃ	
47	タバコ	刻みタバコの葉	
48	タバコ	刻みタバコの葉	
49	雑貨	布団, パンツ (男女), 靴下, 靴, 内履きスリッパ	

店番	分類	商 品	経営者の民族名
50	文房具	反物（柄もの）、ノート、練習帳、鉛筆、鉛筆削り	
51	雑貨	乾燥メン、懐中電灯、石けん、糸、歯ブラシ、化学調味料、アメ、砂糖、パン、ちり紙	
52	嗜好品	刻みタバコの葉	
53	雑貨	帽子、麦わら帽子、編み笠、シュロホウキ、トラップ（大、中、小）、金ばさみ、クワの先、ウシの首につける鈴、スコップの先、ホース、石けん、反物、シャンプー、靴下、洗剤、歯磨き粉、ビスケツト、豆	
54	飲食	駄菓子、パン	
55	食材・雑貨	コショウ（白、黒）、八角、八角の粉、オモチャ、洗剤、タバコ（箱）	
56	飲食	アイスクリーム	
57	酒店	トウモロコシの白酒	
58	雑貨	タバコ（箱）、乾燥メン、駄菓子、ビスケット、歯ブラシ、タオル、中国語辞書、ノート、ボールペン、歯磨き粉、トイレットペーパー、セロハンテープ、洗剤、電球、電池、懐中電灯	
59	食料	アイスクリーム	
60	風呂	シャンプー、リンス	
61	音楽テープ、CD、VCD	CD、ミュージックカセットテープ、VCD	
62	時計修理	時計販売、時計の修理	
63	雑貨	洗剤、懐中電灯、マッチ、糸、タバコ（箱）、キャラメル、駄菓子、化学調味料	
64	飲食	パン	
65	飲食	バナナ、揚げまんじゅう	
66	雑貨	髪留め、鏡、糸、歯ブラシ、乾燥メン、クシ、ビー玉、パチンコのゴム、ロープ、かゆみ止め香料、洗濯ブラシ、鉛筆、ライター、タバコ（箱）、石けん、洗剤、ちり紙、インスタントラーメン、干し魚	
67	食材	アヅキ	
68	衣料	ズボン、セーター	クーツォン
69	衣料	ズボン、セーター	クーツォン
70	衣料	ズボン、セーター、毛布	クーツォン
71	衣料	子供服、毛布、反物（柄もの）、セーター	漢
72	衣料	毛布、ズボン、セーター、子供服	漢

店番	分類	商品	経営者の民族名
73	衣料	ハニ族風の既製服, 反物 (柄もの)	漢
74	衣料	ズボン, セーター, 毛布, 枕	タイ
75	衣料	子供服, セーター, ズボン	漢
76	衣料	ジーパン, ズボン, セーター, ワイシャツ	タイ
77	衣料	セーター, ズボン, 子供服	クーツオン
78	衣料	ズボン, セーター, パンツ, ブラジャー, 反物 (柄もの), 蚊帳	タイ
79	衣料	セーター, ズボン, 子供服	クーツオン
80	衣料	毛糸, 反物 (柄もの), ズボン, セーター, 靴下, 時計, ベルト, ミュージックカセットテープ	漢
81	衣料	毛糸, 反物 (柄もの), ズボン, セーター, 靴下, 時計, ベルト, ミュージックカセットテープ	漢
82	衣料	ズボン, 毛布, ズボン, セーター	
83	雑貨	時計, サンダル, タオル, 長靴, オモチャ, 懐中電灯, 靴	クーツオン
84	雑貨	タオル, 帽子, ハンカチ, 毛糸, マフラー, 鏡, 線香, オモチャ, フック (壁に吸盤でつけるタイプ), ビーズ, クリップ, ポシェット, 紙袋, 財布, クシ, 髪留め	漢
85	雑貨	毛布, 反物 (がらもの), 蚊帳, ジャージ, 布団カバー	
86	時計修理	時計, 修理	漢
87	雑貨	サングラス, 蹄鉄, トラップ, クシ, 懐中電灯, ラジオ, ミュージックカセットテープ, キーホルダー, 南京錠, 電卓, 電池, 延長コード, ベルト, 電気フイゴ, ナイロンテープ	漢
88	靴・衣料	子供のサンダル, 服	
89	雑貨	靴, ベルト, フイゴ (手回し), 時計, ラジオカセット, 懐中電灯, 電球, 南京錠, スリッパ, 時計, ハサミ, 靴,	漢
90	雑貨	蹄鉄, トラップ, 釘, ナイロンテープ, フイゴ (手回し), サンダル, 時計, 南京錠, オモチャ, ラジオカセット, ハサミ, 靴, 長靴, ロープ	
91	雑貨	蹄鉄, トラップ, 南京錠, 紐, 糸, つり糸, 電気コード, 時計, 懐中電灯, サンダル, 靴, 長靴, 太いナイロンロープ	漢
92	ライター	ライター	クーツオン
93	雑貨	靴, サンダル, スリッパ, 長靴, 子供の靴, ラジオカセット, ゲーム, 計算機, AC電源, 靴下, 反物 (柄もの), 毛布	漢
94	靴	靴, 靴中敷き, サンダル, 子供スリッパ, サンダル	漢
95	ライター	ライター	
96	雑貨	時計, 靴下, 延長コード	

店番	分類	商 品	経営者の民族名
97	雑貨	ベルト, 蚊帳, 毛布, 反物(柄もの), スリッパ, ゴム草履, サングラ	漢
98	タバコ	タバコ (葉)	漢
99	雑貨	ポリタンク, バケツ, 茶碗, どんぶり, オタマ, フライ返し, スコップの先, 魔法瓶, ヤカン, 洗面器, 蒸し器	漢
100	雑貨	ノコギリ, トラップ, ベルト, 鎖, 時計, 軍手, 電気コード, 電球ソケット, 電池, ノコギリ(オガ), ハサミ, 時計, 蚊帳, ペンチ, 計算機, 懐中電灯, サングラ, 靴, 長靴, セロハンテープ	漢
101	雑貨	鏡, 南京錠, 爪切り, 洗濯ブラシ, ロープ, パンツ(男女), 軍手, 歯ブラシ, 電球ソケット, タオル, ベルト, 紙袋, リンス, 毛布, 反物(柄もの), 鉛筆, インク, かゆみ止めの薬(瓶), スリッパ, 靴中敷き, 折りたたみ傘, 子供靴	漢
102	雑貨	長靴, サングラ, スリッパ, タオル, ハンカチ, 歯ブラシ, 髪留め, 靴下, 毛布(装飾用)	漢
103	雑貨	反物(柄もの), ストッキング	漢
104	雑貨	毛布, 枕, ワイシャツ, 靴, ロープ, ベルト, ナイフ, オモチャ, フイゴ(手回し), 蝶つがい, ネジ釘, レンチ, ペンチ, 南京錠, 電球ソケット, ナイフ, 時計, 電卓, コンベックス, 靴	漢
105	雑貨	子供靴, スリッパ, サングラ, 電気コード, ベルト, 靴下, 帽子, パンツ(男女), 長靴	漢
106	寝具	枕, 毛布	漢
107	雑貨	反物(柄もの), 蚊帳, 子供靴, 帽子, パンツ(男女)	漢
108	雑貨	長靴, 靴, サングラ, スリッパ, オモチャ, スリッパ, 洗濯ブラシ, 糸, 爪切り, 髪留め, 靴下, スカーフ	漢
109	金物	ラバに装着するベルト, スキの先, クワの先, 蹄鉄, スコップの先, 押し切りナタ, ノコギリ, ハミ, カナテコ, 蹄鉄, カマ, ノミ, ヤスリ, カナノコ, 金ばさみ, 牛の首につける鈴, 南京錠, 包丁, オノの先, 左官道具, オノ, ナイフ, 皮むき器	漢
110	靴	靴修理	
111	合鍵	鍵, 合鍵製作	漢
112	酒店	トウモロコシの白酒	
113	雑貨	ブラジャー, 髪留め, 糸(装飾用), 靴下, 靴中敷き	漢
114	雑貨	靴下, 子供髪飾り, 糸(装飾用), オモチャ, ハサミ, 爪切り, ボール, ヒモ, 鏡, スプーン	漢
115	食材	落花生	
116	雑貨	オモチャ, 髪飾り, ボールペン, 鉛筆, ノート, 農歴の暦, 電球ソケット, 靴中敷き, 洗濯ブラシ, フライ返し, ハサミ, ネジ回し, 南京錠, ボールペン, サイコロ, コンベックス, 醤油, ガラスコップ, 軍手, 風船, ボール, ノリ, トランプ, 針, ホッチキス	漢

店番	分類	商品	経営者の民族名
117	飲食	マントウ	
118	果物	ミカン, リンゴ	
119	野菜	トウガラシ, リンゴ, 胃薬 (ベトナム製), キュウリ	
120	果物	キュウリ, リンゴ, ミカン	
121	雑貨	オモチャ, 懐中電灯, 電球, キーホルダー, ノリ, ハサミ, スプーン, フォーク, ナイフ, セロハンテープ, コンベックス, ボールペン, スコップの先, 洗濯ブラシ, オタマ, 栓抜き, 南京錠, ヘラ, ネジ回し	漢
122	雑貨	洗剤, 懐中電灯, タバコ, 化学調味料, 電池, アメ, 糸, ビスケット, 駄菓子, マッチ	漢
123	タバコ	タバコ (葉)	
124	酒店	トウモロコシの白酒	
125	雑貨	洗剤, 塩, 歯ブラシ, 石けん, 駄菓子, 黒砂糖	
126	雑貨	干魚, トウガラシ, 乾燥メン (コムギ), メン (ソラマメ), ニンニク, スリッパ, 編み笠,	
127	タバコ	刻みタバコの葉	
128	雑貨	洗剤, 髪留め, 軍手, 手袋, 駄菓子, 糸, ちり紙, 歯磨き粉	
129	タバコ	刻みタバコの葉	
130	酒店	トウモロコシの白酒	
131	飲食	バーバー, 揚げまんじゅう	
132	雑貨	洗濯ブラシ, ロープ, 鏡, 駄菓子, パンツ (男女), 電池, 化学調味料, 歯ブラシ, 洗剤, 電球, マッチ, 反物 (柄もの)	
133	雑貨	洗剤, 胃薬 (ベトナム製)	
134	雑貨	コップ, 金タワシ, ヒシヤク, 洗濯タワシ, ハサミ, 電球ソケット, 爪切り, ナイフ, ボールペン, 栓抜き, サイコロ, 靴下, 野菜の種, ボール, 鏡, クシ, 手帳, ノリ, ボタン, ベルト	
135	飲食	サトウキビ	
136	飲食	サトウキビ	
137	雑貨	スリッパ, 靴, サンダル, 長靴	
138	肉屋	ブタ肉	タイ
139	肉屋	ブタ肉	タイ
140	肉屋	ブタ肉	タイ
141	肉屋	ブタ肉	タイ

店番	分類	商品	経営者の民族名
142	肉屋	ブタ肉	タイ
143	肉屋	ブタ肉	タイ
144	肉屋	ブタ肉	タイ
145	雑貨	ザル, ポリタンク, バケツ, ゴミ箱, ヒシャク, ホーロー碗,	漢
146	食材	涼粉	漢
147	食材	ヒヨコマメ, 臭豆腐, 粉涼, 豆腐	漢
148	雑貨・食材	トレットペーパー, 洗剤, 石けん, 歯磨き粉, ライター, 懐中電灯, タバコ, 化学調味料, キャラメル, 醤油, 酢(白), 駄菓子, 乾燥メン(コムギ), タマゴ, トウガラシ, コショウ, 八角, トウガラシみそ, 腐乳(瓶), トウガラシづけラッキョ, ザーサイ, カボチャの花, 落花生, ニンニク, メン(ソラマメ), 砂糖, コムギ製品, ソラマメ, ヒマワリの種, アヅキ, 白アヅキ, グリーンピース, キノコの軸, モヤシ, 豆腐, ホウキ, 金タワシ	漢
149	雑貨	洗剤, 歯磨き粉, 石けん, 化学調味料, 駄菓子, 懐中電灯	漢
150	雑貨	ポリバケツ, 洗面器, ゴミバケツ, プラスチック水切り, ビー玉, オタマ, 軍手, 魔法瓶, ポリタンク, ヤカン, ホウキ, 金タワシ	漢
151	雑貨	ノコギリ, ネジ回し, 蝶つがい, ヤスリ, 金属製の曲尺, カナヅチ, レンチ, ドアの鍵, ネジ釘, 南京錠, 電球ソケット, レンチ, 爪切り, 包丁, 差し込みソケット, ナイフ, 電気コード, 蛇口, 墨つぼ, 延長コード(差し込みつき), 電球, サンドペーパー, 接着剤	漢
152	雑貨	リンス, 化学調味料, 歯磨き粉, 砂糖, かゆみ止め香料(瓶入り), 乾燥メン, 石けん, 懐中電灯, 電池, タバコ, 洗剤, 塩, インスタントラーメン, ビスケット	漢
153	雑貨	トイレットペーパー, ちり紙, 懐中電灯, 乾燥メン, 豆電球, ボールペン, クシ, ライター, キャラメル, トランプ, 化学調味料, インスタントラーメン, シャンプー, マッチ, 塩, 洗剤, 醤油	漢
154	雑貨	メン(ソラマメ), 黒砂糖, 豆腐, ソーセージ, コショウ, ブタソーセージ, ニンニク, 落花生, キノコの茎, ヒョウタン, ザーサイ, 酒麴	
155	飲食	マントウ	漢
156	野菜	モヤシ, カルダモン, 草果, サンショウ	アールー
157	野菜	モヤシ, 青菜, トウガラシ, スグリ	アールー
158	野菜	八角, バナナ, ニラ, 洋絲瓜の芽	アールー
159	野菜	青菜, 青菜の種, マコモ, ニラ, スグリ, モヤシ	アールー
160	野菜	トウガラシ, ニラ, ショウガ, ナス, ダイコン	アールー
161	野菜	トウガラシ, エンドウ, パイナップル, ネギ, 名称不明, カボチャ, 木の花(不明), パパイア, アヒルの卵	アールー

店番	分類	商品	経営者の民族名
162	野菜	バナナ, ニラ, パパイア, サツマイモ, 洋絲瓜, パイナップル, タニシ, 青菜	アールー
163	野菜	青菜, 洋絲瓜	アールー
164	野菜	青菜, ショウガ, トウガラシ, ニラ, タニシ	アールー
165	野菜	サツマイモ, 青菜, ニラ, ダイコン, コンニャク	アールー
166	野菜	ニラ, 白菜, 青菜	アールー
167	野菜	アズキ, 洋絲瓜の芽, 茶, ショウガ, 青菜	アールー
168	野菜	洋絲瓜, 青菜	アールー
169	野菜	青菜, ナスビ, 白菜, 洋絲瓜	アールー
170	野菜	サツマイモ, ニラ, トウガラシ, エンドウ, ナス, アヒルの卵	アールー
171	野菜	ダイコン, 洋絲瓜, 青菜, ネギ	アールー
172	野菜	ニラ, インゲンマメ, 花(野生, 不明), ナス, ショウガ, 青菜, サトイモ	アールー
173	野菜	青菜, 洋絲瓜, ショウガ, 洋絲瓜の蔓部分	アールー
174	野菜	トウガラシ	アールー
175	野菜	ネギ, アヒルの卵, トウガラシ, スグリ	アールー
176	野菜	青菜, ニワトリの卵, トウガラシ, 洋絲瓜, アヒルの卵, サツマイモ, カボチャ	アールー
177	野菜	トウガラシ	アールー
178	野菜	トウガラシ, ニラ, 青菜, パイナップル	アールー
179	野菜	パパイアの花, ニラ, パイナップル, ショウガ, 青菜	アールー
180	野菜	コメ, バナナ, トウガラシ, タニシ	アールー
181	野菜	バナナ, トウガラシ	アールー
182	野菜	トマト, カリフラワー, ゴウヤ, ピーマン, キャベツ, ジャガイモ, ササゲ, 白菜	タイ
183	野菜	白菜, セロリ, 青菜, 窩笋, シイタケ,	タイ
184	野菜	インゲン, コンニャク, トマト, ニガウリ, セロリ, エンドウ, 白菜	タイ
185	野菜	木の皮(不明), キンマ, 窩笋, 塩(ベトナム製), ササゲ, トマト	タイ
186	野菜	ナスビ, ピーマン, 白菜, カリフラワー	タイ
187	野菜	白菜, ササゲ, ピーマン, ゴーヤ, ジャガイモ	タイ

店 番	分 類	商 品	経営者の民族名
188	野菜	ミカン, リンゴ, ニンジン, トマト, ニガウリ, カリフラワー, ピーマン, ササゲ	タイ
189	野菜	蕎麥, 青菜, セロリ, ネギ, サヤエンドウ, ミカン, ジャガイモ, ササゲ, キャベツ, カリフラワー, シイタケ	漢?
190	野菜	ニンニク, コショウ, トウガラシ, ピーマン, 塩	タイ
191	野菜	塩 (ベトナム製), 茶	
192	野菜	カボチャ, トウガラシ, アツキ(米豆, 赤くない品種), ゴマ, リンゴ, ミカン	ヤオ
193	野菜	ミカン, リンゴ, ジャガイモ, ピーマン	タイ
194	野菜	臭豆腐, コンニャク, バナナ, ピーマン	タイ
195	果物	リンゴ, ミカン	タイ
196	果物	リンゴ, ミカン	タイ
197	果物	リンゴ, ミカン	タイ
198	果物	リンゴ, ミカン	タイ
199	果物	リンゴ, ミカン, ジャガイモ	漢
200	雑貨	クワの先, 鍋, ナタ, 洗面器, 刀, カナヅチ, ノコギリ, 砥石	
201	衣料	藍染めの布, 染料	ハニ
202	雑貨	パンツ, ベルト, 電気コード, 電球ソケット, ネジ回し, セーター(毛), 反物(柄もの), スポン	
203	音楽	CD, VCD	漢
204	肉屋	ブタ肉	タイ
205	肉屋	ブタ肉	タイ
206	肉屋	ブタ肉	タイ
207	肉屋	ブタ肉	タイ
208	肉屋	ブタ肉	タイ
209	肉屋	ブタ肉	タイ
210	肉屋	ブタ肉	タイ
211	肉屋	ブタ肉	タイ
212	魚屋	ナマズ(鮮魚)	タイ
213	魚屋	ナマズ(鮮魚)	タイ
214	魚屋	ナマズ(鮮魚)	ハニ

店番	分類	商品	経営者の民族名
215	雑貨	毛布, ハニ族の既製服(ズボン), ハニ族風の布, サングル, 麦わら帽子, カヤ, 糸糸(装飾用), ブラジャー, 髪留め, ワイシャツ	漢
216	雑貨	ミュージックカセットテープ, CD, 靴下, ハンガー, 洗濯ブラシ, ハサミ, 南京錠, 電球, 電球ソケット, 歯ブラシ, 鉛筆, 電池, パチンコの紐, オモチャ, 紐類	漢
217	雑貨	靴下, 折りたたみ傘, サングル, スリッパ, 子供靴	漢
218	飲食	アイスクリーム	漢
219	雑貨	サングル, サングラス, ミュージックカセットテープ, CD, 時計, ベルト, 南京錠, ラジカセ, 軍手, 懐中電灯, 毛布, 長靴, 折りたたみ傘, ライター, 豆電球	漢
220	雑貨	蹄鉄, 金ハサミ, クワの先, ノコギリ, 折りたたみ傘, ブラジャー, タオル, パンツ	漢
221	雑貨	トラップ, 太鼓, 銅鑼, おろし金, ヤカン, 蒸し器, 鍋, ノコギリ(オガ)	漢
222	雑貨	石けん, 洗剤, 糸, 歯ブラシ, 歯磨き粉, 化学調味料, 駄菓子, タバコ(箱), マッチ, 電池, 電球, シャンプー, ちり紙, 鉛筆, 洗濯ブラシ	クーツォン
223	金物	ナイフ, 包丁, カマの柄, 家畜屠殺用のナイフ	アールー
224	ビニールテーブルクロス	ビニールテーブルクロス	漢
225	飲食	アイスクリーム	漢
226	タバコ	刻みタバコの葉	漢
227	雑貨	シャンプー	漢
228	食材	豚足	漢
229	音楽	CD, VCD, ミュージックカセットテープ	漢
230	野菜	ピーマン, キュウリ, エンドウ, 青菜, 洋絲瓜, 洋絲瓜の蔓	アールー
231	野菜	青菜, トウガラシ	タイ
232	野菜	ピーマン	タイ
233	野菜	コンニャク, 青菜	アールー
234	野菜	青菜, ヘチマ, トウガラシ, ヘチマの葉	アールー
235	野菜	落花生	
236	野菜	栗	ヤオ
237	野菜	タニシ, 洋絲瓜, 青菜	アールー
238	野菜	ネギ, セロリ, 窩笋, レンコン, キャベツ, 白菜, 白花菜	アールー

店番	分類	商 品	経営者の民族名
239	野菜	ジャガイモ, ピーマン, 洋絲瓜, アヒルの卵, エンドウ豆の葉, 青菜, カボチャ	タイ
240	野菜	コンニャク, 洋絲瓜, アヒルの卵, エンドウ豆の葉, 青菜, カボチャ	アールー
241	野菜	青菜, 白菜, セロリ, エンドウ	
242	果物	リンゴ, ミカン	タイ
243	果物	リンゴ, ミカン	タイ
244	果物	リンゴ, ミカン	タイ
245	果物	リンゴ, ミカン	タイ
246	果物	リンゴ, ミカン	タイ
247	果物	リンゴ, ミカン	タイ
248	果物	リンゴ, ミカン	タイ
249	果物	リンゴ, ミカン	タイ
250	果物	リンゴ, ミカン	タイ
251	果物	リンゴ, ミカン	タイ
252	果物	リンゴ, ミカン	タイ
253	果物	リンゴ, ミカン	タイ
254	果物	リンゴ, ミカン	タイ
255	野菜	タニシ, 洋絲瓜, ショウガ, 青菜, ネギ, ダイコン	アールー
256	野菜	ミカン, ニンニク, リンゴ, 塩, ピーマン	アールー
257	野菜	ダイコン, 青菜, トウガラシ, ニラ	アールー
258	野菜	サトイモ, トウガラシ, ネギ	アールー
259	野菜	スグリ, アヒルの卵, 茶, 洋絲瓜, 青菜, カボチャ	アールー
260	野菜	バナナ, ニラ, 青菜	アールー
261	野菜	トウガラシ, バナナ, サツマイモ, タニシ, アヒルの卵	アールー
262	野菜	タニシ, スグリ, トウガラシ, ダイコン, 青菜, アヒルの卵, サトイモ, バナナ, エンドウ豆の葉	アールー
263	野菜	エンドウ豆の葉, ダイコンの葉, アヒルの卵, トウガラシ	アールー
264	野菜	青菜, アヒルの卵, ショウガ, バナナ	アールー
265	飲食	サトウキビ	タイ
266	タバコ	刻みタバコの葉	

店番	分類	商品	経営者の民族名
267	タバコ	刻みタバコの葉	
268	時計修理	時計修理	
269		ミュージックカセットテープ, CD	
270	雑貨	タオル, パンツ (男女), 軍手, 靴下, 靴中敷き, ゴム手袋, 髪留め, 毛糸 (装飾用), 腕飾り, 風船	
271	酒店	トウモロコシの白酒	
272	タバコ	刻みタバコの葉	
273	タバコ	刻みタバコの葉	
274	雑貨	洗剤, 石けん, 民族衣装用のテープ, ズボン, 糸, 手袋	
275	雑貨	駄菓子, ビスケット, 電球, 懐中電灯, 電池, 石けん, 歯ブラシ, ボールペン, 塩, 石けん, 乾燥メン (コムギ), 手袋, スリッパ	
276	タバコ	刻みタバコの葉	
277	雑貨	タバコ (葉), 洗剤, ビスケット, ライター, 化学調味料, 時計, 綿布, 塩	
278	飲食	サトウキビ	
279	飲食	アイスクリーム	
280	飲食	揚げまんじゅう, バーバー	
281	薬	漢方薬	
282	家畜	アヒルのヒナ	漢
283	家畜	ニワトリのヒナ, アヒルのヒナ	漢
284	家畜	アヒルのヒナ, ニワトリのヒナ	漢
285	家畜	ニワトリのヒナ, アヒルのヒナ	漢
286	家畜	アヒルのヒナ	漢
287	家畜	子ブタ	漢
288	飲食	蒸した糯米の販売	タイ
289	飲食	蒸した糯米の販売	タイ
290	飲食	蒸した糯米の販売	タイ
291	飲食	蒸した糯米の販売	タイ
292	飲食	蒸した糯米の販売	タイ
293	飲食	蒸した糯米の販売	タイ

台を分解して、家と家との壁の間に片づけておき、市がたつごとにとりだし組み立てている。

(2) 店の分布

次に露店の商品内容と、それを経営している民族とに関連があるかどうかみてみよう（図3，表3）。民族の分類は、後で述べるが民族衣装と聞き取り調査によって判断した。

本通の入り口の対面に位置するNo282～287は、ニワトリ・ダック（いずれも成獣とヒナ）、子ブタなどの家畜を販売する場所である。ヒナを販売しているのは、いずれも者米在住の漢族である。本通の入り口は、雑貨店も露店を開いているのだが、サトウキビ（No135, 136, 265, 278）や、アイスクリーム（No56, 59, 279）などの菓子類、それにマントウ、バーバー、揚げ饅頭、パン（No54, 64, 65, 280）などの飲食店、それに酒（No271, 57, 57）、タバコ（No127, 129, 266, 267, 272, 273, 276）などの嗜好品を扱う店が多い。このうちサトウキビを販売しているのは、全員タイ族である。

本通のNo83～122と、No14～53の区間は、雑貨店や靴などの生活用品を扱う露店が中心である。商品の売り方は、台売りがほとんどである。雑貨店は、37店について売り手の民族名がわかった。その内訳は漢族の店が35店で、クーツオン族の店が2店と漢族がおよそ95%を占める（表4）。

生活用品を扱う露店は、およそ100メートル続く。ここを過ぎると、道路左右のおよそ50メートルの区間に衣料店が28店並ぶ（No1～13, 68～82）。店の形態は吊り売りタイプがほとんどである。No1～13の民族ごとの内訳は、漢族の店が6店で、クーツオン族の店が5店、タイ族の店が3店である（表5）。

横通入り口からおよそ40メートルの道路左右には、青果を主として販売する露店が並ぶ。このうちNo195～199, 242～254は果実を売る露店であり、No156～192, 230～241, 255～264は、野菜を販売している。No156～181, 233, 234, 237, 238, 240, 255～264は、アールー族の店であり、No182～188, 190, 193～198はタイ族の店である。アールー族の店のほとんどは、道路に面した有利な場所ではなく、タイ族の店の背後という不利な場所で営業していることがわかる。果物と野菜の露店は台売りタイプの店も若干みられるが、ほとんどが地べた売りタイプによる販売である。

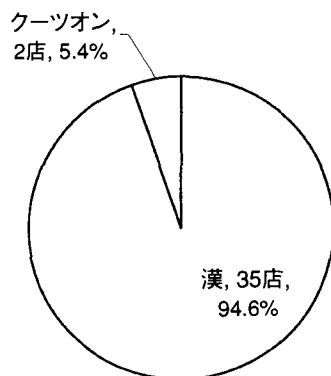


表4 雑貨の民族分類

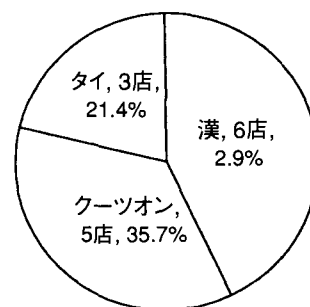


表5 衣料店の民族分類

果実を販売する露店の民族ごとの内訳は、タイ族が17店、漢族が1店と、タイ族の店が94%とほぼ独占している(表7)。一方、野菜を扱う露店はアールー族が42店(43%)、タイ族が24店(14%)、ヤオ族が2店(2%)、漢族が1店(1%)とアールー族の店が全体の半数近くを占める(表6)。

野菜売り場を過ぎたおよそ15メートルの間は、雑貨店(No145~154, 215~217, 219~224, 227, 229)と、その間に食品売露店(No218, 225, 228)が並ぶ。クーツォン族が営む雑貨店(No222)と、アールー族が金物を販売する店(No223)以外は、すべて漢族が経営する露店である。

ここを過ぎ本通にのびるおよそ30メートルの間に、魚と肉を売る露店が並ぶ。肉売り場(No138~144, 204~211)だけは、市で唯一コンクリート作りの常設台が設置されている。販売されている肉は、すべてブタ肉であり一つの店が一頭をまるごと解体し販売する。経営者は全員がタイ族である。

鮮魚店は、肉売り場にはさまれるようにして露店をだしている(No212~214)。毎回の市によって店数に変化がある。11月15日の市では、3店の露店がたち、すべての店でナマズを販売していた。そのうち2店がタイ族、1店がハニ族の店であった。11月21日の市では6店が店をだし、そのうち5店ではタイ族がナマズを売り、1店はハニ族がコイを販売していた。

市の露店の分布を店の種類別にみると、本通が公道に交差する市の入り口付近には、家畜販売や飲食店が集中し、横通には果物、野菜、肉、魚といった食品を販売する露店が多い。本通は雑貨や衣料を扱う露店を中心に、タバコ、酒などの店が並ぶ。露店はさまざまな種類の店が、混然と無秩序に出店しているのではなく、同じ種類の店が集まってグループを形成していることがわかる。

商品の売り方からみると、地べた売りタイプは、野菜、果物を販売する露店に多い。台売りタイプは、果物や野菜を売る露店にもみられるが特に雑貨店に多い。吊り売りタイプは、主として衣料品を扱う露店の形態である。

常設店の経営は漢族とタイ族に限られる。しかしタイ族の店は、漢族の店数と比較するとはるかに少ない。この傾向は雑貨を扱う露店でも同様で、ほぼ漢族が経営を独占している。ところが果実を販売する露店は、ほぼすべてがタイ族によって占められている。一方、野菜を販売する露店は

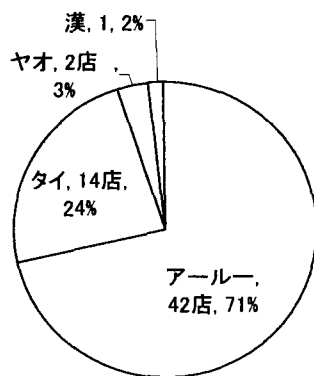


表6 野菜店の民族分類

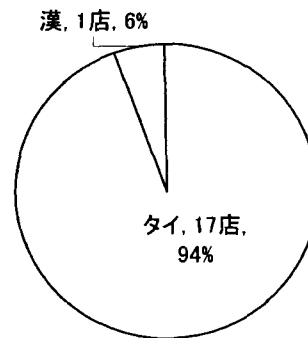


表7 果実販売の民族分類

アールー族がおよそ半数を占め、ついでタイ族が多い。衣料販売は、漢族、クーツォン族、タイ族の順に多い。

そしてヤオ族、ハニ族、ジョワン族の露店は極めて少ない。ヤオ族の露店は、No192の野菜販売だけである。No201は藍染めの布と藍の販売するハニ族の店である（ハニ風の既製服を売る店主の民族名は不明⁽¹⁴⁾）。ジョワン族は、11月15日の市では露店をだしていないが、11月21日の市では、ピーマンだけを販売している露店が1店あった。ミャオ族の露店は1店もなかった。このように、露店の種類によって民族ごとに明確な相違が存在することがわかる。

(3) 市の場所代

市で露店をだすごとに、政府の商業をあつかう部門の工商所が場所代を徴収する。場所代は、地べた売り・台売り・吊り売りの3タイプごとに値段が異なる。地べた売りタイプは毎回の市ごとに、工商所の役人が市の露店を個別に回って2元を徴収する（写真21）。内訳は、衛生費と安全費がそれぞれ1元である。吊り売りや台売りは、1つの単位ごとに3ヶ月で30元を支払う。さらに毎回市のごとに、3元が徴収される。その内訳は、衛生費が1元、安全費として2元である。

④……………商品からみた市

(1) 商品のカテゴリー別分類

者米市の露店は、専門店と雑貨店にわかれる。特に雑貨店は、生活用品、食品、嗜好品、医療品など、多様な種類の商品を販売している。そこで市でどのような種類の商品が販売されているか把握するために、まず市全体で販売されている商品について分類をおこない、次に商品の全種類をリストアップした（表8）。

商品の種類を、便宜的に生活用品類、趣味・玩具類、食品類、薬類の4分類した。さらに生活用品類を、衣料群、アクセサリ・女性用品群、靴群、電気群、道具・工具群、洗面・掃除・洗濯群、台所・食卓群、寝具群、文具群の9群に分類した。趣味・玩具類は、玩具群と音楽群に2分類した。食品類は、菓子・パン類群、調味料群、乾燥食品群、加工食品群、肉・魚・卵群、青果群、家畜群、そして酒・タバコ・茶群の8群に分けた。

11月15日の市で販売されていた商品の全種類は321種である。このうち189種は生活用品類で全体の59.1%を占め、以下食品類の111種（34.7%）、趣味・玩具類の13種（4.1%）、薬類の5種（1.6%）の順になる（表9）。

このうち商品の種類の多い生活用品類と食品類の群ごとの内訳は以下のようになる。生活用品類は種類の多い群から、道具・工具群の56種（29.5%）、衣料群の30種（15.8%）、台所・食卓群の26種（13.7%）、洗面・洗濯・掃除群の21種（11.1%）、文具群の19種（10%）、電気群の13種（6.8%）、アクセサリ・女性用品群の12種（6.3%）、靴群の8種（4.2%）、寝具群の5種（2.6%）である（表10）。

食品類は種類の多い群から、青果群の56種（50.5%）、乾燥品群の12種（10.8%）、加工食品群の11種（9.9%）、菓子・パン群の10種（9.0%）、調味料群の6種（5.4%）、肉・魚・卵群の7種

表8 商品の分類

類	群	商 品	計	類	群	商 品	計
生 活 用 品	衣 料	ズボン	22	電 気	懐中電灯	16	
		セーター	18		電球	14	
		反物 (柄もの)	17		電池	13	
		靴下	17		電球ソケット	11	
		ベルト	16		ラジオカセット	8	
		パンツ (男女)	13		電気コード	6	
		糸	12		延長コード (差し込みつき)	4	
		子供服	9		計算機	3	
		軍手	8		電卓	2	
		ブラジャー	7		豆電球	2	
		帽子	5		ラジオ (携帯を含む)	2	
		ワイシャツ	3		差し込みソケット	1	
		手袋 (毛糸)	3		AC電源	1	
		ハンカチ	2		生 活 用 品	南京錠	13
		麦わら帽子	2			ロープ	7
		布	2			ナイフ	7
		ジーパン	1			トラップ (大, 中, 小)	7
		ジャージ	1			ポリタンク	6
		ハニ族風の既製服	1			蹄鉄	6
		上着 (男性)	1			傘 (おりたたみ傘を含む)	5
	藍・藍染め布	1	フイゴ (手回し)	5			
	ゴム手袋	1	バケツ (ゴミバケツ, ポリバケツ)	5			
	ストッキング	1	ノコギリ	5			
	チャック	1	スコップの先	5			
	バックル	1	クワの先	5			
	ハニ族風の布	1	金ばさみ	4			
	ボタン	1	ネジ回し	4			
	マフラー	1	コンベックス	4			
	服 (迷彩服)	1	レンチ	3			
	綿製品	1	ペンチ	3			
	ア ク セ サ リ ・ 女 性 用 品	時計	15	紐		3	
		髪留め	11	ネジ釘		3	
		毛糸 (装飾用)	8	蝶つがい		2	
		クシ	8	洗面器	2		
		子供髪飾り	2	蛇口	2		
		サングラス	2	牛の首につける鈴	2		
		ビーズ	1	ヤスリ	2		
		ポシェット	1	ポリバケツ	2		
		スカーフ	1	プラスチックザル	2		
		腕輪かざり	1	ノコギリ (オガ)	2		
		民族衣装用のテープ	1	ナタ	2		
		生理用品	1	ナイロンテープ	2		
		靴	スリッパ	22	キーホルダー	2	
			サンダル	19	カマ	2	
			靴 (大人)	17	カナヅチ	2	
長靴	10		編み笠	1			
子供の靴	5		壁テコ	1			
靴中敷き	5		針	1			
子供スリッパ	1		押し切りハサミ (草を切る)	1			
運動靴	1		ホース	1			

類	群	商 品	計	類	群	商 品	計
生 活 用 品	道 具 ・ 工 具	ブリキバケツ	1	生 活 用 品	洗 面 ・ 洗 濯 ・ 掃 除	鏡（手鏡を含む）	7
		家畜屠殺用のナイフ	1			歯磨き粉	7
		ラバにつけるハミ	1			爪切り	6
		ノミ	1			洗面器	5
		砥石	1			ちり紙	5
		ドアの鍵	1			シャンプー	5
		ツルハシの先	1			金タワシ	3
		つり糸	1			ホウキ（ビニール製）	2
		墨つぼ	1			タライ	2
		スキの先	1			トイレトペーパー	2
		サンドペーパー	1			リンス	2
		コテ	1			ハンガー	2
		鎖	1		ちりとり	1	
		釘	1		シュロ箒	1	
		曲尺	1		カミソリ	1	
		カナノコ	1		毛布	14	
		カナテコ	1		蚊帳	5	
	オノの先	1	布団		3		
	オノ	1	枕		2		
	マッチ	8	布団カバー		1		
	ライター	8	文 具		ハサミ	10	
	ヒシヤク	7			ボールペン	9	
	ヤカン	5			鉛筆	5	
	魔法瓶	5			ノート	4	
	ガラスコップ	5			セロハンテープ	4	
	包丁	4			のり	3	
	オタマ	4			紙袋	2	
	スプーン	4			農歴の暦	1	
	ホーローコップ	3			接着剤	1	
	蒸し器	2			手帳	1	
	鍋	5			辞書	1	
	栓抜き	2			練習帳	1	
	ホーロー碗	2			ホッチキス	1	
	水筒（お茶入れ）	1			線香	1	
	皮むき器	1			財布	1	
	フライ返し	2	ゴム		1		
	レンゲ	1	クリップ		1		
	フォーク	1	鉛筆削り		1		
	どんぶり	1	鉛筆		1		
	茶碗	1	趣 味 ・ 玩 具		オモチャ	11	
	プラスチック水切り	1			サイコロ	2	
	おろし金	1			トランプ	2	
	蒸し器	1		風船	2		
	ゴミ箱	1		ボール	2		
	フック（壁に吸盤でつけるタイプ）	1		パチンコのゴム	2		
	洗 面 ・ 洗 濯 ・ 掃 除	洗剤		15	ビー玉	1	
		石けん		13	ゲーム	1	
歯ブラシ		11		ミュージックカセットテープ	9		
タオル		9		CD	6		
洗濯ブラシ		10	VCD	3			

類	群	商 品	計	類	群	商 品	計	
食	音楽	銅鑼	1	食	青	白菜	9	
		太鼓	1			ネギ	7	
	菓子	駄菓子	13			セロリ	5	
		ビスケット	9			エンドウ豆の葉	4	
		蒸した糯米	6			キャベツ	3	
		アイスクリーム	5			ヘチマ, ヘチマの葉	2	
		マントウ	4			ダイコンの葉	1	
		パン類	パン			3	白花菜	1
			キャラメル			3	カリフラワー	3
			揚げマンジュウ			3	野生の花	1
			バーバー			2	パパイヤの花	1
			アメ			2	カボチャの花	1
	調味料		化学調味料			11	カボチャ	5
			塩 (ベトナム製を2店で販売)			8	スグリ	5
		砂糖 (黒砂糖を含む)	6			ニガウリ	3	
		コショウ	2			キュウリ	3	
		醤油	4			トマト	3	
		酢 (白)	1			パパイヤ	2	
		乾燥食品	乾燥メン			8	ヒョウタン	1
			落花生			4	名称不明	1
			即席ラーメン			3	トウガラシ	21
			メン (ソラマメ)			2	洋絲瓜	13
	乾燥米線		2			ピーマン	9	
	干魚		2			ナス	5	
	キノコの軸		2			ササゲ	4	
	コメ		1			エンドウ	4	
	ヒマワリの種		1			インゲン	2	
	八角		3			アヅキ	3	
	加工食品	サンショウ	1			白アヅキ	1	
		コショウ	2			ヒヨコマメ	1	
		コンニャク	5			ソラマメ	1	
		豆腐	3			サヤエンドウ	1	
		ソーセージ (ブタソーセージ)	3			グリーンピース	1	
		臭豆腐	2			ショウガ	8	
		漬物	2			ダイコン	6	
		ザーサイ	2			ニンニク	4	
		腐乳 (瓶づめ)	1			レンコン	1	
		涼粉	2			マコモ	1	
	肉・魚・卵	豆腐	1			草果	1	
		トウガラシみそ	1			カルダモン	1	
		豚足 (味付け済み)	1			モヤシ	3	
		ブタ肉	15			筍	4	
		アヒルの卵	11			洋絲瓜の芽の部分	2	
		タニシ	7			洋絲瓜の蔓の部分	2	
		ナマズ	3			シイタケ	2	
		コイ	1			ジャガイモ	5	
		テラピア	1			サツマイモ	5	
		ニワトリの卵	2			サトイモ	3	
	青果	青菜	32			ミカン	22	
		ニラ	12			リンゴ	21	

類	群	商 品	計
食 品	青果	バナナ	10
		パイナップル	4
	その他	サトウキビ	12
	家畜	アヒル（ヒナ）	5
ニワトリ（ヒナ）			
品	酒・タバコ	ブタ	1
		酒秤り売り	6
		茶	3

類	群	商 品	計
食 品	コ酒茶タバ	タバコ（箱）	8
		タバコ（葉）	19
薬 類		タイガーバーム系統	1
		かゆみ止め香料瓶	3
		胃薬（ベトナム）	2
		漢方薬	1
		かゆみ止め香油	1
その他		野菜の種	2
		酒麴	1

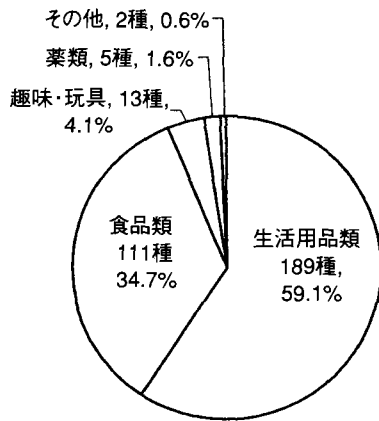


表 9 商品の分類

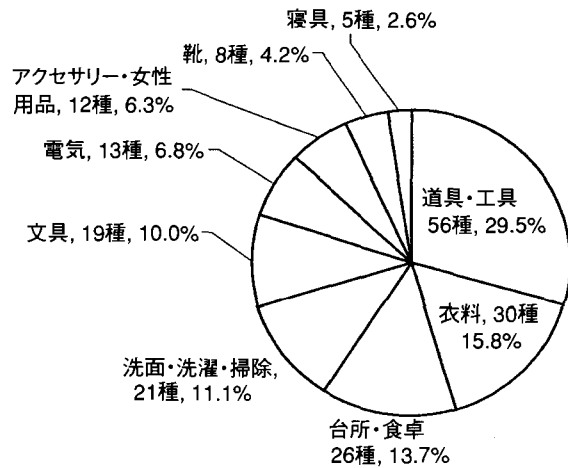


表 10 生活用品類の商品類

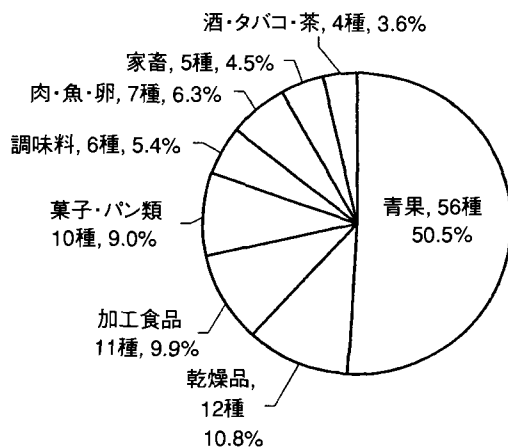


表 11 食品類の商品類

(6.3%), 家畜群の5種(4.5%), 酒・タバコ・茶群の4種(3.6%)である(表11)。

次に、分類ごとに商品の特徴を述べる。

(2) 生活用品類

a 道具・工具群

生活用品類のなかで、最も種類の多い商品は、農具や耕作それに生活一般に関わる道具・工具群であり56種を数える。このなかにロープやポリタンクなどの石油加工製品も含めたが、主要な商品は、トラップ、蹄鉄、ファイゴ、ノコギリ、スコップの先、クワの先、金バサミ、ネジ

回し、南京錠といった金物類である。

道具・工具群は、これを専門に販売する露店 (No109, 223) でも売られているが、ほとんどが雑貨を扱う露店で他のさまざまな日用品と一緒に販売されている。こうした金物類のうち、南京錠が13店で販売されており扱う店が最も多い。次にロープ、ナイフ、トラップが7店で、蹄鉄が6店で、ファイゴ、バケツ、ノコギリ、スコップの先、クワの先が5店で販売されていた。ところで金物には、これ以外にも金ばさみ、ねじ回し、コンベックス、レンチ、ペンチ、紐、ネジ釘、蝶番、蛇口、牛につける鈴、ヤスリ、ノコギリ、ナタ、カマ、カナヅチ、オノといった商品が売られている。こういった金物のなかでもクワの先、スコップの先、ナタ、カマ、オノなどは、農業を主とする者米谷の村人にとって必需品といえる。

者米谷では、者米の町で大通りに建てられているコンクリート造りの家屋は、建築を専門にする業者が建てた。材料も金平などの町から運びこまれた。しかし者米谷の各民族の家屋は、村人がそれぞれ自分自身で建築したものである。専門の大工は存在しない。コンベックス、レンチ、カナヅチ、ペンチ、ヤスリ、ノコギリ、クギなど、大工道具が多いのは、このことを反映していると考えられる。

者米谷の山地の村には、自動車が通れる道路は存在しない。者米で購入した、例えば背負い籠に入るこまごまとした日常雑貨だけでなく、屋根を葺くためのおよそ1.2×3mもあるスレートも、人もしくはラバに乗せて運ぶ必要がる。そのためラバにつける蹄鉄は必需品である。

プロパンガスがあるのは、町のごく一部の食堂だけである。山地の村は、現在も煮炊きは薪に頼っている。薪を確保することは、女性の重要な仕事の一つである。山地の村の家屋の一角には必ずかなりの量の薪が備蓄してある。家屋内には、地炉がきってあり、残り火がいつもくすぶっている。炊事の度に火を素早く起こす必要があり、このとき手回しファイゴは欠かせない道具の1つである。

トラップは、金物類のなかで最も多くの露店で販売されていた。現在では野生の動物狩猟は禁止されている。しかし、おそらく水田のコメや山地の畑で栽培するキャッサバやトウモロコシなどの作物を食べにくる野生動物が多く、これを駆除する必要からトラップを使う頻度が高いことが予想される。このように、商品の種類と者米谷の生活世界とは当然のことながら密接な関係にあるといえる。

さて道具・工具類のなかで、壁コテ、針、押し切りハサミなど1店だけで販売されている商品は、56種類のうち24種類とおよそ半数近くを占める。雑貨店は66店あるが、このように各種の商品が平均して各店で販売されるのではなく分散する傾向にあり、それが各店の品揃えの特色をだしている。露店の商品構成については後述する。

b 衣料群

道具・工具群について、商品の種類が多いのは衣料群の31種である。このなかで10店以上の店で販売している商品をあげると、ズボン(22店)、セーター(18店)、反物(柄もの)(17店)、靴下(17店)、ベルト(16店)、パンツ(13店)、糸(12店)となる。

上位を既製服であるズボン、セーター、靴下が占めるが、いずれも男性用である。それに対して女性用の衣料品として、反物(柄もの)が17店で販売されている。反物はアールー・ヤオ・ミヤ

オ族などの女性が、服の布地の一部として利用する。このように女性用の既製の種類が少ないことが特徴としてあげられる。

次に、現在の中国では都市や農村に関係なく一般的になったジーンズを販売している露店が1店しかないことが特徴としてあげられる。それに対して、ハニ族風の民族衣装を既製の服に仕立てたものが売られている。この「ハニ風既製の服」は、ハニ族だけでなく他のタイ族やクーツオン族、それにアール族の女性も買い求めて着用している。

衣料群の商品は、32店（ハニ服店を加えること）の衣料専門店だけでなく、雑貨を扱う露店でも売られている。主として衣料専門店だけで販売される商品には、ズボン、ジーンズ、毛布、枕、帽子、ジーパン、ジャージ、男性上着がある。セーターは18店販売されているが、このうち15店が衣料専門店であり雑貨店では3店でしか扱っていない。子供服は、9店で販売されているが、そのうち8店が専門店である。これに対して雑貨店だけで扱われている商品として、靴下、ベルト、糸、ファスナー、ボタン、ストッキング、バックル、ボタン、マフラー、迷彩服がある。またパンツ（男女）は、13店販売されていたが9店が雑貨店である。

雑貨を販売する露店での衣料品の品揃えは、専門店と競合しない種類の服を選択している。また露店の雑貨店は台売りタイプであり、その販売面積はおよそ2×4メートルとさほど広くはない。他の商品群を並べる必要からも、小物でかさばらない種類の衣料品が選ばれていると考えられる。

c アクセサリー・女性用品群

雑貨店だけで販売される商品群である。時計も含めたが、腕時計が主でありしかも大半は男性用である。女性用の既製品の装飾品の種類が、髪留め、ビーズなどと少なく、商品の種類が少ないように見える。しかし毛糸を1種類の商品として分類したが、実は数十種類の色の品揃えがある。これは各民族の女性が、毛糸を編み物の材料としてではなく、アクセサリーとして使用するため、その好みにあわせてさまざまな色の毛糸をとりそろえているからである。

例えばヤオ族の若い女性は、毛糸を使ったボンボリ状の帽子を着用する。また同じヤオ族の成人女性は、布をかぶせた帽子を日常的に着用するが、その上に装飾として何種類もの毛糸を巻きつける。さらに胸の前に毛糸をそのまま束ねてぶら下げアクセサリーにする。

d 靴群

市で販売されている靴は、9種類に分類することができる。最も多くの露店で販売されているのがスリッパ⁽¹⁵⁾（22店）で、以下サンダル（19店）、靴（大人）（17店）、長靴（10店）、子供靴（5店）、靴の中敷き（5店）、子供スリッパ（1店）、運動靴（1店）の順になる。

スリッパは8元、サンダルが4元である。靴（大人）と分類したものには、布製のアウトドア風の運動靴と、ビジネス風の皮靴が含まれる。布製の靴の値段は12元である。スリッパとサンダルは男女兼用であり、民族の違いに関係なく最も日常的に使用されている。専門店と雑貨店の両方で販売されるが、種類による違いはない。

e 電気群

電気群の商品では、懐中電灯を扱っている店が最も多く（16店）、以下4店以上で販売されている商品を列挙すると電球、電池、電球ソケット、ラジオカセット、電気コード、延長コードの順になる。雑貨店だけで販売される。

f 趣味・玩具群

玩具と音楽関係の商品に分類した。玩具には、オモチャ、サイコロ、トランプ、風船、ボール、パチンコのゴム、ビー玉、ゲームの8種類がある。オモチャと分類したものには、ビニール製の人形、プラスチック製の鉄砲や自動車、戦車などの簡単なプラモデルが含まれる。

音楽と分類した商品には、音楽のカセットテープ(3店)、CD(9店)のほかに、VCD(3店)も含めた。VCDには、中国製の映画やテレビドラマだけでなく、ハリウッド映画のコピーや、韓国や日本のテレビドラマなど、広い範囲のジャンルの種類が売られている。

者米谷の河谷平野では、テレビ番組はその地形のため受信が可能な番組は限られている。者米には本屋はなく、また新聞も各家で毎日読まれるほどには普及していない。CDやVCDの商品の種類の多さは、再生機器がかなり普及していることが予想されるだけでなく、者米谷以外の情報もこういった映像が作り出すイメージの世界がかなりの影響力をもっているのではないと思われる。

g 台所・食卓群

台所・食卓群の商品は、29種類ある。3店以上で販売される商品を列挙すると、マッチ(8店)、ライター(8店)、ヒシヤク(6店)、ヤカン(5店)、魔法瓶(5店)、ガラスコップ(5店)、包丁(4店)、オタマ(4店)、スプーン(4店)、ホーローコップ(3店)、鍋(3店)となる。プロパンガスが普及しているのは町のごく一部の食堂だけであり、町以外の村では、現在も薪を使って煮炊きする。マッチ、ライターは、必需品のため台所・食卓群に加えた。

鍋には中華鍋と、煮炊きを使う底が平たい金属製鍋(片手、両手鍋)を含めた。者米谷の各民族にとって中華鍋を使った「炒める」という調理方法は、1950年代以前にはなかった。しかし現在、中華鍋は各民族の村で普及しているようである。ただし、ヤオ・ハニ・クーツォン族の村でみた中華鍋の使い方は、薪による調理のため火力が小さいこともあるが、「炒める」というよりも「少し炒めてから煮る」に近い。

食器のなかで、露店では販売されていないものとして皿類があげられる。やはりヤオ・ハニ・クーツォン族の例であるが、料理は個々人の皿に盛るのではなく、テーブルの中央に料理を大きめのドンブリに盛りつけ、それを各自が茶碗にとりわけながら食べる。皿類は使われない。またヤオ族の女性は、男性と同じテーブルにつくことはない。女性は各人がバナナの葉にご飯をよそい、その上におかずをのせ、地炉の周囲や屋外で食事をとる。やはり皿類は使われない。このように露店で販売される食器の構成は、当然のことながら各民族の食事習慣を色濃く反映していると考えられる。

h 洗濯・洗濯・掃除群

20種類の商品がある。5店以上の露店で販売されている商品を列挙すると、洗剤(15店)、石けん(13店)、歯ブラシ(11店)、洗濯ブラシ(10店)、タオル(9店)、鏡(7店)、歯磨き粉(7店)、爪切り(6店)、洗面器(5店)、ちり紙(5店)、シャンプー(5店)となる。

i 文具群

18種類の商品がある。ノート、鉛筆、ノリ、ハサミ、ボールペンなど小中学生が学校で使用する文具が目につく。ところで者米谷の市で、学校から連想される商品として販売されていない商品として書籍があげられる。露店ばかりではなく、常設店にも書店は存在しない。おそらくこれは、

者米谷における成人の中国語の識字率が大きく関係していると考えられる。

j 寝具群

寝具群には、毛布（14店）、蚊帳（5店）、布団（3店）、枕（2店）、布団カバー（1店）がある。者米谷は熱帯モンスーンの影響を受けるため、夏は河谷平野では平均気温が25.5度と高いだけでなく、湿度も高くなり非常に蒸し暑い。しかし標高1,000メートルをこえた山地の村では、乾期に入った12月になると朝晩は冷えて最低気温が10度を下回ることもたびたびある。夜を過ごすには、布団と毛布を2枚重ねないと寒い。乾期に入った11月～12月にかけて、毛布を販売する露店が14店と最も多かったのは、このことを反映しているのであろう。

(3) 食品類

a 青果群

青果群は専門店だけで販売され、雑貨店で販売されることがない商品群である。青果群は、食品類のなかで56種と商品の種類が最も多い群である（表8）。果実は、ミカン、リンゴ、パイナップル、バナナと種類は少ない。ミカンとリンゴは、者米谷では栽培されていない。リンゴは江西省や雲南省の北部、それに四川省などの金平県外から輸入された商品である。金平県に入ってきた外来の果実は、いったん金平や勐拉の果物問屋に卸される。果実を販売する露店の主は、ほとんどが者米に在住しているが、仕入れのために勐拉や金平などの果実問屋に出向いて購入してくる。

野菜の種類は、果菜（22種）、葉菜（10種）、根菜（7種）、花菜（4種）、茎菜（4種）、芋（3種）、茸（1種）に分けられる。野菜を販売する露店は63店を数えるが、そのなかで最も多くの露店で売られている野菜は青菜（32店）である。以下販売店数の上位3番目までを列举すると、トウガラシ（21店）、洋絲瓜（13店）、白菜・ピーマン・ショウガ（9店）の順になる。

野菜を主として商っているのは、アールー族（42店、71%）とタイ族（14店、24%）である。アールー族とタイ族が販売する野菜を比較すると、アールー族が販売する野菜は、すべて村の周囲の菜園畑で栽培されたものである（表12）。一方タイ族が販売する野菜のうち、トウガラシとピーマンを除いたものは、果実と同様に勐拉や金平で仕入れて、それを者米の市で販売している。例えばアールー族は、セロリ、ジャガイモ、窩筍、ササゲ、トマト、キャベツ、カリフラワーを栽培していない。これらはタイ族が隣町で仕入れて販売する野菜である。

このようにアールー族とタイ族とでは、販売する野菜に顕著な違いが認められる。さらに野菜の販売方法においても、相違が認められる。タイ族の野菜の販売は、さお秤を用いて1斤（500グラム）を単位とする量り売りである（値段については表13を参照）。一方のアールー族は、さお秤を用いた量り売りをおこなわない。例えば青菜、エンドウなどの野菜は適当な束にくくり、1束単位で販売する。またモヤシのように束にしにくい野菜は、碗にモヤシを山盛りにして1碗を単位として販売する。このように同じ野菜の露店でも、アールー族とタイ族とでは、野菜の種類と販売方法に顕著な相違が認められる。

b 乾燥食品群

11種類ある（表8）。乾燥メン（コムギ製）（8店）、即席ラーメン（3店）、ソラマメ製メン（2店）、乾燥米線（2店）と乾燥メン類が15店と多くの店で販売されているのが特徴である。

表12 アールー族とタイ族が販売する青果

タイ族		
順位	品名	販売店数
1	トウガラシ	10
2	青菜	9
3	ピーマン	8
4	白菜	7
5	セロリ	5
6	ジャガイモ	5
7	蕎麥	4
8	ネギ	4
9	ササゲ	4
10	アヒルの卵	4
11	洋絲瓜	3
12	ミカン	3
13	ナス	3
14	トマト	3
15	キャベツ	3
16	カリフラワー	3
17	リンゴ	2
18	ヘチマ, ヘチマの葉	2
19	バナナ	2
20	ニラ	2
21	ダイコン	2
22	ショウガ	2
23	塩 (ベトナム製)	2
24	シイタケ	2
25	サツマイモ	2
26	コンニャク	2
27	ゴウヤ	2
28	キュウリ	2
29	カボチャ	2
30	エンドウ	2
31	レンコン	1
32	落花生	1
33	パパイヤの花	1
34	パイナップル	1
35	ニンニク	1
36	ニワトリの卵	1
37	ニガウリ	1
38	タニシ	1
39	スグリ	1
40	白花菜	1
41	サヤエンドウ	1
42	コメ	1
43	エンドウ豆の葉	1
44	インゲン	1
45	洋絲瓜の芽の部分	0
46	洋絲瓜の蔓の部分	0
47	野生の花	0

アールー族		
順位	品名	販売店数
1	青菜	23
2	トウガラシ	10
3	洋絲瓜	10
4	ニラ	10
5	バナナ	7
6	アヒルの卵	7
7	ショウガ	6
8	タニシ	6
9	ダイコン	4
10	スグリ	4
11	ネギ	3
12	コンニャク	3
13	エンドウ豆の葉	3
14	カボチャ	3
15	サトイモ	3
16	サツマイモ	3
17	パイナップル	3
18	モヤシ	3
19	エンドウ	2
20	白菜	2
21	ナス	2
22	洋絲瓜の芽の部分	2
23	洋絲瓜の蔓の部分	2
24	パパイヤ	2
25	茶	2
26	ピーマン	1
27	青菜の種	1
28	インゲン	1
29	キュウリ	1
30	ダイコンの葉	1
31	マコモ	1
32	アズキ	1
33	カルダモン	1
34	草果	1
35	サンショウ	1
36	野生の花	1
37	名称不明	1
38	八角	1
39	ジャガイモ	0
40	セロリ	0
41	蕎麥	0
42	サヤエンドウ	0
43	ササゲ	0
44	キャベツ	0
45	カリフラワー	0
46	シイタケ	0
47	トマト	0

*比較のため、販売していない種類も「0」として表示してある。

タイ族		
順位	品名	販売店数
48	モヤシ	0
49	緑色の筋、酸っぱい	0
50	マコモ	0
51	パパイヤの花	0
52	八角	0
53	茶	0
54	ダイコンの葉	0
55	サンショウ	0
56	サトイモ	0
57	草果	0
58	カルダモン	0
59	アズキ	0
60	青菜の種	0

アールー族		
順位	品名	販売店数
48	ニガウリ	0
49	レンコン	0
50	白花菜	0
51	パパイヤの花	0
52	コメ	0
53	ゴウヤ	0
54	ヘチマ、ヘチマの葉	0
55	落花生	0
56	ニンニク	0
57	ミカン	0
58	リンゴ	0
59	塩（ベトナム製）	0
60	ニワトリの卵	0

*比較のため、販売していない種類も「0」として表示してある。

c 加工食品群

10種類ある(表8)。販売が多い商品から列挙するとコンニャク(5店)、豆腐(3店)、ソーセージ(3店)、臭豆腐(2店)となる。コンニャクは、雲南だけでなく四川省や湖南省でも栽培され食される。臭豆腐は、野菜と炒めるなど料理の材料として使われるだけでなく、これを炭火で焼いて食べる。

d 菓子・パン群

雑貨店で売られている駄菓子、ビスケット、それにキャラメルなどが含まれる(表8)。その他の蒸した糯米、マントウ、パン、揚げ饅頭それにバーバー⁽¹⁶⁾などは、本通や横通でそれぞれを専門に扱っている露店で販売されている。調味料類は9種類あるが、いずれも雑貨店を中心に売られている。一方、乾燥食品群や加工食品群は、9店ある食材専門店で扱われている。

e 調味料群

商品には、化学調味料、塩、砂糖、胡椒、醤油、酢がある(表8)。化学調味料が11店と最も多くの店で販売され、塩と砂糖の11店がこれに続く。醤油は2店だけの販売と少ないのが特徴である。いずれも雑貨店を中心に販売される。中国製でないヴェトナム製の塩が、青果を扱うタイ族の露店で販売されていた。輸入ルートは不明である。

f 肉・魚・卵群

商品の種類には、ブタ肉、アヒルの卵、ニワトリの卵、タニシ、ナマズ、コイ、ティラピアがある(表8)。トリやアヒルなどは、家畜売り場で生きたものをそのまま買い求め、自宅で調理するのが一般的である。そのため市で解体して売られている生肉の種類は、ブタ肉に限られる。ブタは者米谷の各村の農家が飼育したもので、者米から東におよそ4キロ離れた打落にいったん集められる。者米の市で販売されているブタ肉は、すべて打落から各店主が仕入れてきたものである。11月15日の市では、15店のブタ肉店が各店1頭ずつ合計15頭のブタを売った。店主は全員がタイ族である。

ブタは、打落で毛を焼き熱湯で処理する。この時点では、ブタはまだ解体されていない。各店はブタを一頭単位で仕入れ、朝の6時くらいから売り場のコンクリートの台上で解体しながら生肉を客に販売していく。まず頭と足を切り取り内臓を取り出す。次にブタを頭から尻にかけて、背骨に沿って縦裂きにする。これを大きく脂身、赤身、三枚肉の部位に分類する。それ以上の生肉の細分はおこなわれないが、その場で客の注文に応じて、肉を切り取りながら販売する方法である。取引の単位は、1斤（500グラム）で、およその部位の値段は、脂身が多いと1斤が3.5元、ヒレだと1斤が6元、三枚肉が5.5元で肝臓は1斤が6元である（表13）。

ブタ肉は、一頭を一日で売り切るのが基本である。そのため市が終了する夕方近くになって肉が売れ残っている場合は、値段を下げることもある。12月15日の例では、老集寨郷で道路の建設工事がおこなわれ、村人が工事に参加したためいつもの市より集客が少なかった。そのため普通だと昼過ぎには完売する肉が、数店の肉屋では3時を過ぎても売れ残っていた。そこで残った脂身を1斤3元に値下げしたり、13.5元分買った客にサービスで13元にするなど、ディスカウントをおこなっていた。

魚屋で扱われる商品は、毎回の市によって若干異なる。11月15日の市でナマズだけだったが、11月21日の市ではナマズ、コイ、ティラピアの3種類の魚が売られていた。11月15日の市では3店の魚屋は、すべて隣郷の勐拉在住のタイ族の行商人であった。商品のナマズは、勐拉で仕入れ市の日に者米まで運送して販売している。11月21日の市では、6店の魚屋のうち5店はナマズを、1店はコイとティラピアを扱っていた。ナマズを売っている魚屋のうち2店は勐拉在住のタイ族で、他の2店は六官在住のタイ族である。残りの1店は打楽在住のタイ族で、いずれも勐拉でナマズを仕入れて者米の市で販売している。コイとティラピアを扱っている魚屋は老集寨郷の大竹棚在住のハニ族で、羅盤寨で商品を仕入れ前日から者米に入り市当日に店をだしていた。

ナマズは高さ80センチほどの円筒形のポリタンクに入れて運送する。市ではナマズを、木の枠にビニールシートを敷いた「生け簀」に放ち販売する。売れ残ればまたポリタンクにもどし、別の市に運び再び販売される。魚も肉と同様に、1斤（500グラム）を単位とし販売する。ナマズは1斤が4元、コイが5元、ティラピアが2.5元である（表13）。

市で販売される卵は、アヒルとニワトリのものである。アヒルの卵が11店で売られているのに対して、ニワトリの卵は2店でしか販売されていない。卵は青果を販売しているアール一族とタイ族によって、野菜と一緒に並べて販売されている。アヒルの卵は、ワラで4～5個を一列に包んで持ち運びされる。こうすることで山地の運搬でも、卵が割れにくくなるという。アヒルの卵は、少々大きさに差があっても1個が5角で販売されている。

g 家畜群

種類は、子ブタ、アヒル、ニワトリ、それにアヒルとニワトリのヒナである。子ブタは、およそ250キロ離れた開遠から運ばれてくる。アヒル、ニワトリのヒナは、漢族が者米の近くに飼育場もっている。ヒナは1羽単位で売られ、価格はおよそ1.9元であるが、交渉によって若干価格は安くなる。アヒル、ニワトリを販売するのは、ハニ族やタイ族である。

h 酒・タバコ・茶群

市の露店で販売される酒は、トウモロコシの蒸留酒である。1リットル単位の量り売りである。

表 13 主要商品の価格

分 類	売り手	商 品	販 売 単 位	価 格	円 換 算
青 果	タ イ 族	ミカン	4 個	1元	13.4 円
		臭豆腐	1 個	5分	0.7 円
		ニンジン	1 斤	1元	13.4 円
		ジャガイモ	1 斤	6角	8.0 円
		ハクサイ	1 斤	8角	10.7 円
		リンゴ	1 斤	1.5 元	20.1 円
		ゴマ	1 斤	3元	40.2 円
		トウガラシ	1 斤	1元	13.4 円
		インゲンマメ	1 斤	1元	13.4 円
		ナス	1 斤	1元	13.4 円
		ゴーヤ	1 斤	1元	13.4 円
		カリフラワー	1 斤	1元	13.4 円
		ネギ	1 斤	1元	13.4 円
		セロリ	1 斤	1元	13.4 円
		蕎麥	1 斤	1元	13.4 円
	キャベツ	1 斤	8角	10.7 円	
	モヤシ	1 斤	5角	6.7 円	
	ヒヨコマメ	1 斤	1元	13.4 円	
	サトウキビ	1 斤	3角	4.0 円	
	ア ー ル 族	青菜	5 束	1.5 元	20.1 円
ナタ		1 丁	15 元	201.0 円	
アヒルの卵		1 個	5角	6.7 円	
タニシ		1 碗	5角	6.7 円	
ショウガ		一山	1元	13.4 円	
菜の花		一束	1元	13.4 円	
エンドウ		3 束	1元	13.4 円	
ミント		一山	5角	6.7 円	
タ ハ イ ニ 族	ナマズ	1 斤	4元	53.6 円	
	コイ	1 斤	5元	67.0 円	
	ティラピア	1 斤	2.5 元	33.5 円	
ブ タ 肉	脂身	1 斤	3.5 元	46.9 円	
	ヒレ	1 斤	6元	80.4 円	
	三枚肉	1 斤	5.5 元	73.7 円	
	肝臓	1 斤	6元	80.4 円	
雑 貨	スリッパ	一足	8元	107.2 円	
	サンダル	一足	4元	53.6 円	
	ライター	4 個	1元	13.4 円	
	タバコ (箱) 紅河	1 個	3.5 元	46.9 円	
	刻みタバコの葉	1 斤	4元	53.6 円	
	軍靴風運動靴	1 足	12 元	160.8 円	
	ハイカットの靴	1 足	15 元	201.0 円	
食 品	タイ族	米線 (巻粉)	1 碗	2元	26.8 円
	糯米	1 碗	1元	13.4 円	
	マントウ	1 個	5角	6.7 円	
家 畜	ニワトリのヒナ	1 羽	1.9 元	25.5 円	
	ニワトリ	1 羽	21 元	281.4 円	
酒	トウモロコシ白酒(1)	1 瓶	1元	13.4 円	
	トウモロコシ白酒(2)	1 瓶	1.2 元	16.1 円	

* 1元=13.4円, 2003年11月6日の為替レートで計算

* 1斤=500グラム

価格に、1元と1.2元の2種ある。買い手は自らポリタンクを持参し、これに酒を入れて村にもちかえる。

タバコは、フィルターつきの巻きタバコで20本入りの箱タイプと、刻みタバコの2種ある。巻きタバコは雑貨店で販売され、「紅河」という銘柄で1箱3.5元である。刻みタバコは露天で、数種類の刻みタバコを四角柱形に固めたものを客の注文に応じて量り売りする。価格はタバコの種類によって異なるが、1斤3.5元前後である。刻みタバコは、現地で「煙筒」という、直径およそ10センチ、高さ70～80センチの水キセルをつかって吸う。刻みタバコを販売する専門の露店では、水キセルが数本常備されており客は自由にタバコの試飲をすることができる。

市で巻きタバコを販売する雑貨店は8店に対して、刻みタバコを販売する専門店は19店と多い。また巻きタバコはタバコ会社による製品である。タバコの葉は者米谷では栽培されておらず、刻みタバコも金平県外から持ちこまれる。茶は3店の雑貨店で販売されていたが、いずれもビニール袋に包装され製品化されたものであった。

(4) 商品構成の相違

a 雑貨店の商品構成

さまざまな商品を扱うのが雑貨店であるが、その特徴はどこにあるのだろうか。商品群ごとの特徴を述べながら、雑貨店と専門店との品揃えについてもふれてきたが、ここでその特徴をまとめておきたい。

市の露店では、全部で321種の商品が扱われていた。そのうち雑貨店が扱う商品は、217種である(表14)。生活用品類が175種(80.6%)、以下食品類が23種(10.6%)、趣味・玩具類が13種(6%)、薬類が3種(1.4%)である(表15)。このように雑貨店の商品の種類は、生活用品類が多く、食品類が少ないのが特徴といえる。また食品類も菓子・パン、加工食品、乾燥食品が主要な商品群であり、青果群や肉・魚・卵群といった、生鮮食料品をほとんど販売していない。

市で販売されている生鮮食料品の大半は、者米谷で生産される。ところが生活用品類の商品は、すべて者米谷以外の都市から輸入された工業製品であり、このことが雑貨店の商品の特徴だといえる。

b 商品構成の差異性

雑貨店や衣料店といった同じカテゴリーの商品を販売する露店では、一見すると各店の商品構成はさほど違いがあるようにはみえない。その実態を知るために、商品と販売されている店数との関係を調べた。

ある1つの商品が、何店の露店で販売されているかを調べると、321種の商品のなかで、1つの露店でしか販売されていない商品が、全種類の37.3%を占める。以下比率の多い順に列挙すると、2店でしか販売されない商品が18.3%、3店だけで販売される商品が9.3%、4店でしか販売されない商品が5.3%の順になる。このように1店または2店でしか販売されていない商品が、321種の商品のうち実に半数以上を占めている。このことは各露店の商品構成は、同じに見えるのだが実際は各店によって微妙に異なっていることを示している。

これは露店で販売可能な商品の点数と、彼らの販売戦略と深い関係があると思われる。雑貨店を

表 14 雑貨店の商品分類(1)

分 類	店 舗 数	
生活用品	農具・工作などの道具類	51
	衣料	26
	洗面・洗濯	23
	文具	16
	台所・食卓用品	23
	電化製品	13
	アクセサリ・女性用品	11
	靴	7
	寝具	5
趣味・玩具	音楽	6
	玩具	7
食 品	菓子類・パン類	6
	調味料	4
	乾燥食品	6
	加工食品	3
	青果	2
	嗜好品	2
薬 類	薬類	3
そ の 他	その他	3
計		217

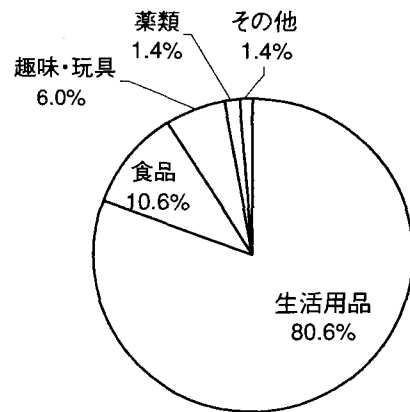
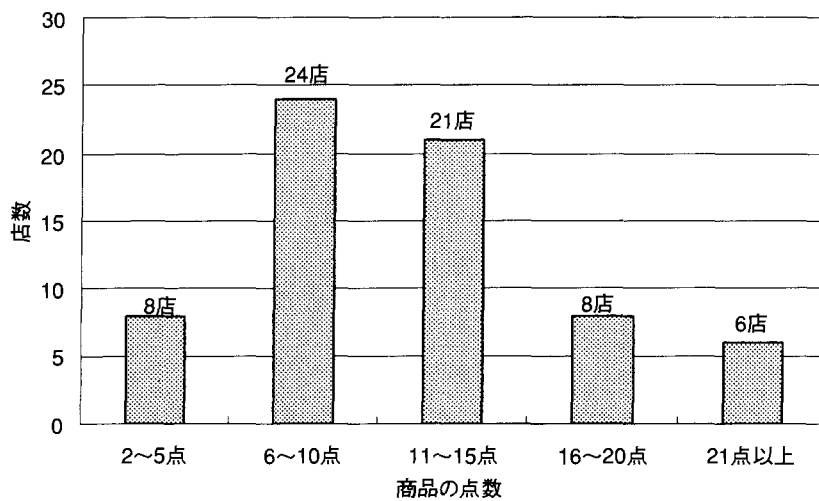


表 15 雑貨店の商品分類(2)

表 16 店の商品構成



例にとってみよう。1露店数で販売されている商品の種類を、2～5種類、6～10種類、11～15種類、16～20種類、21種類以上の5つの分布域に分けてみた(表16)。最も多い商品数の分布域は、6～10種類(36%)であり、ついで11～15種類(32%)が多い。台売りの大きさはおよそ4×2メートルである。この狭い面積内では、自ずと販売できる商品の種類と量は限られている。そこで各露店は販売戦略の1つとして、他店とは微妙に商品の品揃えに変化をもたせ差異化をはかっていると考えられる。

⑤……………買い手と売り手からみた市

(1) 時間ごとの客の動き

市における買い物客の動向と、各民族の市利用の相違を知るために2つの調査をおこなった。買い物客の時間ごとの市における滞留人数の推移と、各民族の人数比率の調査である。

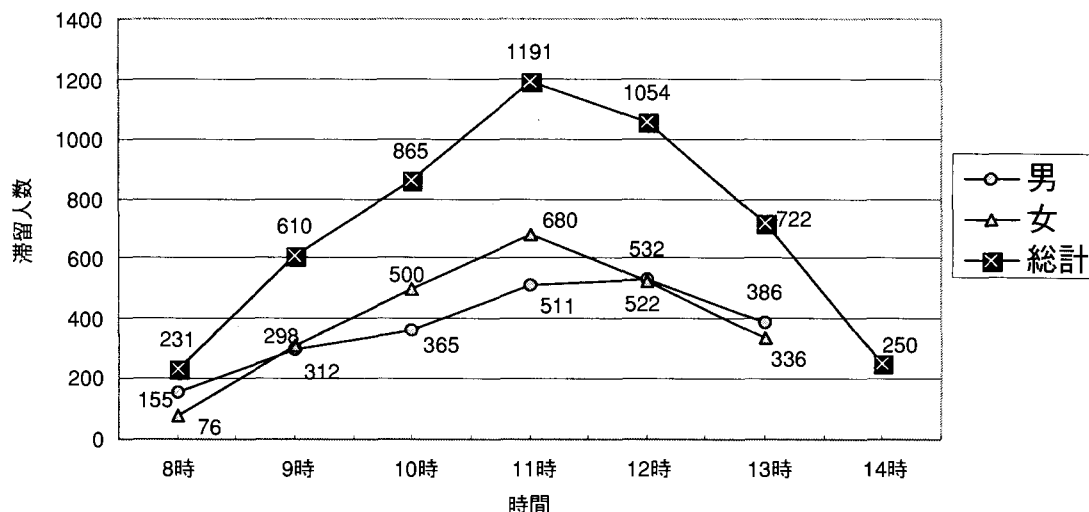
市における滞留人数の推移は、客が集まりはじめる8時を起点として、14時までを1時間ごとに、7回に分けて本通と横通で買い物をする客の人数を数えた(表17)。調査方法は調査者2人が男女それぞれを担当し、本通と横通を素早く移動しながら通りに滞留している人数を男女別に数えた(食堂で食事をしている人数は含んでいない)。市全体の人数を数え終わるのにおよそ15分程度必要である。そのため移動している買い物客を重複して数える欠点や、市から去っていく買い物客の人数を数え漏らす可能性は存在するが、およその傾向を把握するには支障がないと考えた。

結果は8時の時点で231人、9時の時点で610人、10時の時点865人と市に滞留する人数は増加しながら推移する。そして11時の時点で1,191人と、市の滞留人数が最も多くなる。これ以降は12時の時点で1,054人と減少に転じ、13時の時点で722人、14時の時点で250人と、ほぼ朝の8時の時点の人数にもどる。

男女別の人数の傾向をみると、朝8時の時点では男性が155人と女性の76人を上回っている。ところが、9時の両者の人数は女性が312人と男性の298人とほぼ同数になり、10時の時点で女性が500人と男性の365人を上回る。滞留人数が最も多くなる11時の時点では、男性が511人、女性が680人とその差がさらに広がる。ところが12時になると、両者の人数は男性が532人、女性が522人とほぼ同数になり、13時の時点では男性が386人、女性が336人と再び男性の人数が多くなる。

おそらくこの傾向は、村内の男女ごとの仕事の差異によるものではないかと推測される。各民族

表17 市における時間ごとの滞留人数



の男女の分業については、まだ詳しい調査はおこなっていない。しかし筆者が現在住み込んで調査しているヤオ族の村である梁子寨瑤2隊では、女性が日常的な生活面でおこなう仕事は、男性と比較してはるかに多い。

例えば朝食前には飲料用の水汲みをおこない、村の周辺の野菜畑に水を撒くとともに、朝食用の野菜も摘んでくる。朝食の準備、子供の世話、洗濯も女性の仕事である。朝食が終われば、ナガイモなどの野生有用植物を採集に出かけるのも女性である。このように日常的なルーティーン仕事の多くは女性の負担である。これらの仕事はある程度すませないと市にはでかけられないという条件が、8時台において男性が女性の数を上回るという数値となって表れているのではないかと推定している。

次に各民族の市利用の相違を知るために、12時の時点における民族ごとの女性の人数を数えた。市にやってくる各民族の男性は、固有の民族衣装を着用している者も若干いる。しかし大多数がワイシャツなどの上着に、ズボンという姿である。そのため男性の民族名を、服装からだけで判断するのは不可能である。一方女性は、12時の時点で522人が市に滞留していたが、そのうち441人(84%)が民族固有の衣装を着用していた。またハニ(写真19の右)、タイ(写真14の正面から歩いていく女性)、ヤオ(写真5)、クーツォン(写真35)、アールー(写真17)、ミャオ(写真36)の各民族衣装は特徴が非常にはっきりしており、容易に民族名を判断することができる。よって市の民族ごとの女性の人数を計測することで、市に滞留する民族ごとのおよその人数の比率を知ることが可能だと考えた。結果は、12時における市の各民族の人数の比率は、ハニ族が最も多く244人で、55.3%と半数以上を占める。以下、タイ族が86人(19.5%)、アールー族が64人(14.5%)、ヤオ族が33人(7.5%)、クーツォン族が14人(3.2%)の順になる(表18)。

さて市に買い物に来る各民族の比率を比較するには、者米谷の各民族の人口比を把握しておく必要がある。表19に、市に集まってくる範囲にある村を、民族ごとに分類し統計したものを示した⁽¹⁹⁾。クーツォン族の村が最も多く、25村を数え全体の29%を占める。以下ハニ族の24村(28%)、アールー族の16村(18%)、タイ族の10村(11%)、ヤオ族の7村(7.8%)、ミャオ・ジョワン族

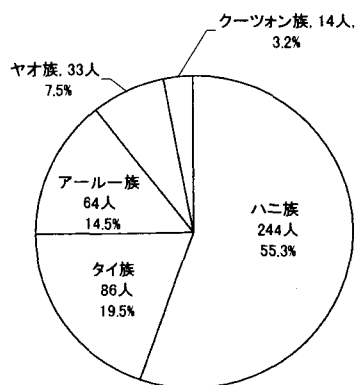


表18 市における民族(女性)の場合

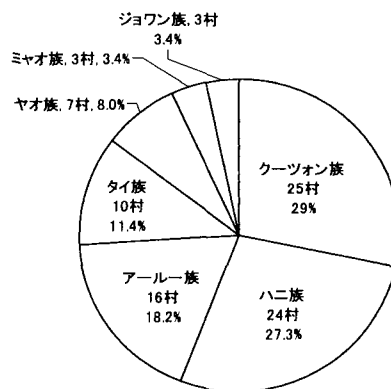


表19 民族別にみた村の比率



写真 35 クーツォン族の女性



写真 36 ミャオ族の女性

がそれぞれ3村(3.3%)の順になる。

市における民族ごとの女性人数の比率と、民族ごとの村の比率を比較すると、村の数ではクーツォン族が最も多いのだが、市の人数比率においては最も少ない。それに対して、ハニ族は村の数では全体の28%と2番目であるが、市における人数の比率では、55.3%と最も高い。タイ族も村の数では4番目であるが、市の民族比率では3番目である。

1950年代以前のクーツォン族は、者米市において商品を売買することは少なかったという〔中国科学院民族研究所雲南民族調査組1963〕。市での売買よりもむしろハニ族やタイ族と、狩猟した野生動物や籐で編んだ籠、それにブタなどを、米や古着などと交換していたといわれている。先に述べたように、現在政府はクーツォン族に対して重点的な「扶貧政策」を実施し、移動的な焼畑、山焼きを禁止し定住化をうながし、それとともに棚田を開墾させコメが自給できるように援助している。しかし、クーツォン族の現金収入やコメの収穫量は、タイ族やハニ族と比較するとはるかに低い。

者米谷における人口比と比較して、市におけるハニ族やタイ族の滞留比率がクーツォン族よりもはるかに高いのは、おそらく民族間の市における購買力の差を示しているものと推定される。

いずれにしても市を買い手側からみると、午前中に多く人が買い物をすませ、午後には帰路につく傾向があるといえる。また市に集まる時間帯が男女では異なり、男性が朝早くから市に集まってくるのに対して、女性は少し遅れて市に来るといった傾向がうかがえる。そして各民族によって、市の利用頻度に顕著な差異が認められる。

(2) 買い手が来る範囲

者米の市を利用する村人は、距離と時間にしてどのくらいの範囲から集まって来るのだろうか。者米の市を利用するのは、者米拉祜族郷全域の村と、老集寨郷でも者米川に面した南側斜面に所在する村である。さらに西は隣県の緑春県に所在する平河周辺の村人も者米の市に集まってくる。東は、距離にするとおよそ20キロ離れた三棵樹周辺から買い物客がやってくる。市に集まるミャオ・ハニ・ジョワン族は、この周辺の村人である。車だとおよそ1時間の距離である。

三棵樹の南側で、大冷山の北側斜面にはヤオ族の村が散在する。その1つである梁子寨瑤の村人も、者米の市を利用している。車が通れる道路はない。村の標高はおよそ1,100メートルで川沿い

の茨通壩から村まで、登りだと徒歩で2時間かかる。者米までは茨通壩まで下りに要する時間がおおよそ1時間30分、そこから車でおよそ40分かかるので、車の待ち時間をあわせるとおおよそ片道で2時間30分～3時間30分が必要である。

隣県の緑春県に所在する平河周辺のヤオ族も、者米の市を利用している。平河は距離にしておおよそ20キロ、車でおよそ1時間の距離である。者米の南側には、クーツォン族の村が散在する。者米からほぼ南に直線距離でおおよそ8キロにクーツォン族の小白村が所在する。標高はおおよそ800メートルあり、徒歩で3時間の距離である。

者米の北側に位置する老集寨郷内では、中寨、羅盤、黒田村に住むアールー族が、野菜を市で販売するとともに市で買い物をする。直線距離にするとアミロでおおよそ5キロ、羅盤、黒田でおおよそ8キロである。しかし村は標高1,200～1,300メートルに位置し、車が通れる道路はなく山道を徒歩で通わなくてはならない。村人の話によるとアミロまでだと徒歩で3時間かかるという。さらにアミロよりも距離のある羅盤、黒田では4時間かかるという。

このように者米の市を利用している村のうち、車の利用が可能な東西の公道周辺の村は、おおよそ20キロ以内にある。そして徒歩、または徒歩と車を利用して市に通う範囲は、片道3～4時間以内の範囲内にある村だといえる。

(3) 商人の動きと6日ごとの市

者米の市は、6日ごとに開催される。市は者米だけで開催されているのではない。者米谷の村や町や、さらには金平県内各地でも市がたつ。これらの市は、それぞれが関係なく市の日取りが決まっているのではなく、いくつの市がまとまって1つのシステムを構成している。

紅河を渡った川岸の渡口から金平～勳拉～者米いう金平県内を中心にして、緑春県の平河を加えると、街道沿いに14の市がたつ。渡口では日曜日ごとに市が開催されるが、その他の市はすべて者米と同様に、6日ごとに1回の市がたつ。市の開催地点と市間の距離および、金平を第1日目として、他の市が開催される日取り順をまとめた(図4)。市は以下のように開催される。

第1日目 金平、頂青

第2日目 那発

第3日目 勳拉、平河

第4日目 八道班、三棵樹、銅場

第5日目 者米、三家道

第6日目 阿得博、沙依坡、大寨、螞蟻塘

一見すると各町が、ランダムに市の日取りをおこなっているようにみえる。しかし金平を中心にして、街道でつながる6つの市の関係を見ていくと、金平→那発→勳拉→八道班→三家道→阿得博と市がたつ。このように金平周辺の市は、同じ日に市が開催されることがないように日取りが決まっている。これを金平グループと呼んでおく。

者米の市を中心にする、街道筋に並ぶ5つの町で、者米→螞蟻塘→頂青→勳拉→三棵樹と、金平グループと同様に、やはり開催日が重ならないように市がたつことがわかる。これを者米グループと呼んでおく。このうち勳拉の市は、2つの市グループの両方に属している。勳拉と同時にたつ

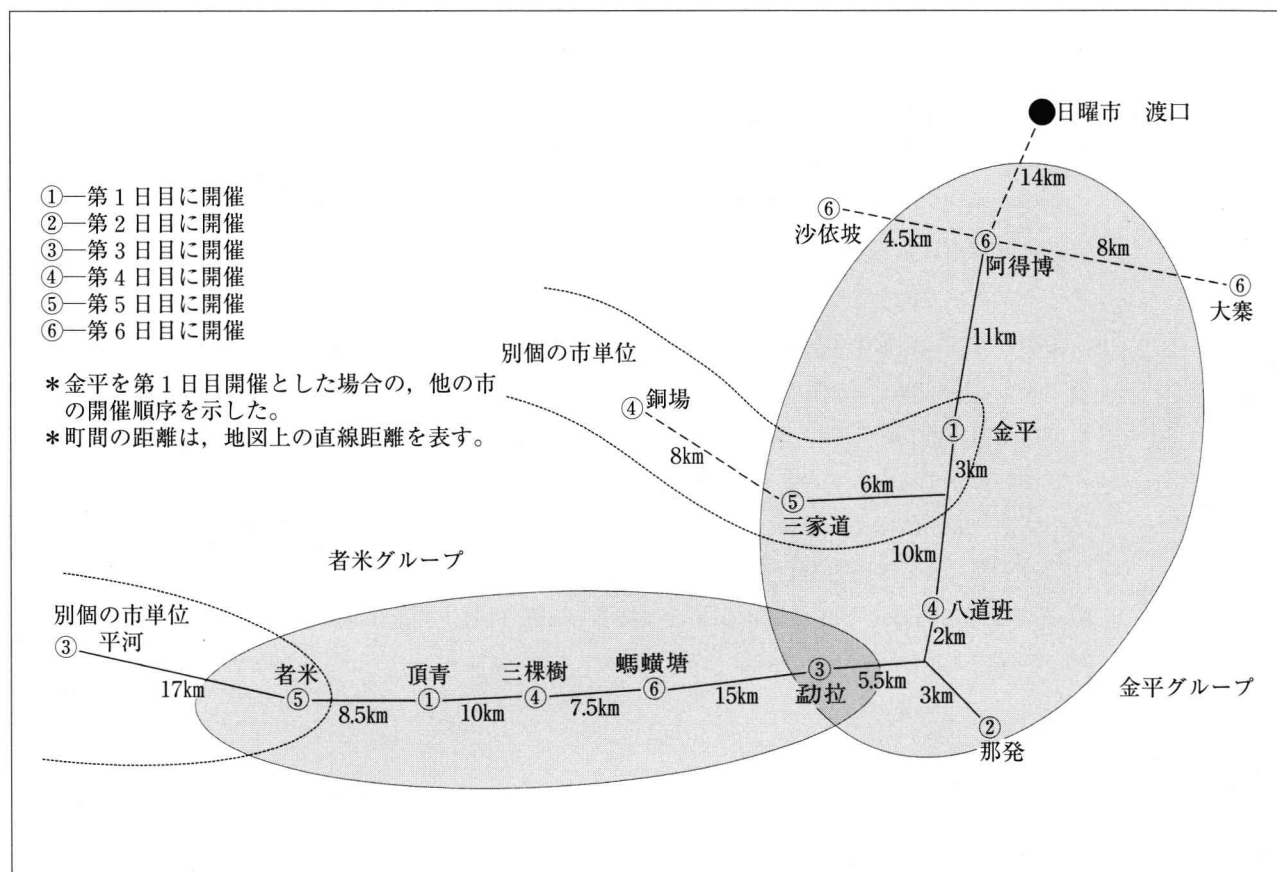


図4 二つの6日ごとと市グループの関係

平河の西には、また別の市グループが存在する。

金平グループの市がたつ町の距離（地図上の直線距離）をみていくと、金平—阿得博が11キロ、金平—三家道が9キロ、金平—八道班が13キロ、八道班—那發が5キロ、勐拉—那發が8.5キロである。市が開催される町の間隔は、平均すると11.3キロである。

者米グループの場合は、者米—頂青が8.5キロ、頂青—三棵樹が10キロ、三棵樹—螞蟻塘が7.5キロ、螞蟻塘—勐拉が15キロと、市間の距離は平均すると10.25キロである。このように1つのグループ内の市は、間隔をおいて開催されていることがわかる。

この2つのグループ間では、例えば金平グループの金平と者米グループの頂青が同日に市がたつ。2つ町の距離は53キロである。2つのグループ間で、同日に開催される市の距離をみていくと、第3日目に市がたつ勐拉と平河が58キロ、第4日目に市がたつ八道班と三棵樹が30キロ、第5日目に市がたつ者米と三家道が64.5キロ、第6日目に市がたつ螞蟻塘と阿得博が46.5キロの距離がある。2つのグループ間で同日に開催される市の間隔は、平均すると50.4キロになる。このようにグループ間で同日にたつ市は、かなりの距離をおいて開催されることがわかる。

阿得博から者米にかけて、2つの6日ごと市のグループが抽出できるが、勐拉は共通の市としても重なっている。また平河でもう一つ別の市グループと繋がっている。このように市グループは、

別の6日ごと市のグループと市を共有することで、リング状につながりながら広がっていると考えられる。

者米の露店は、商品を売る側からみれば、3タイプに分類できる。主が者米に在住し常設店を経営しながら、市の日には店の前に露店をだすタイプ。市の日だけ商品を並べて露店をだすタイプ。そして街道沿いでたつ市を回って露店をだす行商専門の3タイプである(表20)。

№68～69, 203の21店の露店を調べた結果、者米以外でも市をだす露店が17店あった(表21)。者米を含めて2カ所の市で露店をだすものが6店、3カ所の市で露店をだすものが9店、4カ所の市で露店をだすものが1店、そして6カ所の市で露店をだすものが1店である。

行商をおこなう露店と各市との関係を見ると(表21)、移動する範囲と距離は露店によってさまざまである。№71, 73の衣服を扱う行商の露店は、者米—勅拉—南科間を移動する。その距離はおよそ100キロである。№74, 75の衣服の販売と№86の時計修理を商売とする露店は、平河—勅拉のおよそ58キロ間を移動する。このうち時計修理の露店は、週の6日間を各市で露店をだし1日休憩するという日程である。№81～83は、者米と勅拉の2カ所の市で露店をだす。その移動距離は41キロである。№70～92は、平河—三棵樹の間を移動し、その距離は35.5キロである。№92は、平河—者米—頂青の3カ所を移動する。その距離は、22.5キロである。№76, 78は、者米—三棵樹間を移動する。その距離は、18.5キロである。つまり市をだす行商タイプの露店商は、街道沿いにたつ市を選択して露店をだしていることがわかる。

者米グループ内の行商タイプの露店商は、数珠状に連なった市グループによって運ばれてきた商品を、勅拉など金平グループとつながっている市で購入している。行商タイプの露店商にとっては、市グループの構造は、開催日が重ならない市を選択し移動することが可能だけでなく、商品の仕

表20 露店をだす市

店番	職種	露店をだす市	居住地	民族
68	衣料	者米	者米	クーツオン
69	衣料	者米	者米	クーツオン
70	衣料	三棵樹, 者米, 平河	者米	クーツオン
71	衣料	者米, 勅拉, 南科	者米	漢
72	衣料	者米, 勅拉	勅拉	漢
73	衣料	者米, 勅拉, 南科	者米	漢
74	衣料	者米, 勅拉, 平河	者米	タイ
75	衣料	者米, 勅拉, 平河	勅拉	漢
76	衣料	者米, 三棵樹	者米	タイ
77	衣料	者米, 平河, 三棵樹	者米	クーツオン
78	衣料	者米, 頂青, 三棵樹	頂青	タイ
79	衣料	者米	者米	クーツオン
80	衣料	者米, 三棵樹, 平河, 頂青	者米	漢
81	衣料	勅拉, 者米	者米	漢
83	雑貨	者米, 三棵樹, 勅拉	勅拉	クーツオン
84	雑貨	者米	者米	漢
86	時計修理	者米, 頂青, 三棵樹, 勅拉, 平河, 螞蟻塘	不明	漢
87	雑貨	勅拉, 者米	者米	漢
89	雑貨	者米	者米	漢

表21 行商が移動する市の範囲

番号	品物	民族	居住地	平河⑥	者米①	預青③	三棵樹⑥	蟻蟻塘②	勐拉⑤	南科?	移動距離
71	衣料	漢	者米		○				○	○	100キロ
73	衣料	漢	者米		○				○	○	
74	衣料	タイ	者米	○	○				○		58キロ
75	衣料	漢	勐拉	○	○				○		
86	時計修理	漢		○	○	○	○	○	○		
81	衣料	漢	者米		○				○		41キロ
87	雑貨	漢	者米		○				○		
203	CD	漢	者米		○				○		
72	衣料	漢	勐拉		○				○		
91	雑貨	漢	勐拉		○				○		
83	衣料	クーツォン	勐拉		○		○		○		
70	衣料	クーツォン	者米	○	○		○				35.5キロ
77	衣料	クーツォン	者米	○	○		○				
80	衣料	漢	者米	○	○	○	○				
92	ライター	クーツォン	者米	○	○	○					22.5キロ
76	衣料	タイ	者米		○		○				18.5キロ
78	衣料	タイ	預青		○	○	○				

*地名の横の数字は、者米の市からの順番を表す。

入れにとっても非常に便利なシステムであるといえる。

⑥……………まとめと今後の視点

6日ごと市の発生過程をその要因を歴史的視点から考察し論じることは別稿にゆずりたい。最後に調査の結果をまとめつつ、今後市を調査する上で必要となる視点について述べたい。

市では、者米谷に居住する各民族が必要とする商品を販売している。そのため商品を調べることで、彼らの生活世界のさまざまな側面を映し出すことが可能だと考えられる。例えば衣料品を例にあげると、市で販売されていた既製のほとんどが男性用のズボン、セーター、靴下などであった。女性用の既製服は非常に少なく、中国の都市や農村に関係なく、一般的になったジーンズを販売している露店は1店しかなかった。

そのかわりに、アールー・ヤオ・ミャオ族などが、服の布地に利用する反物（柄もの）を多くの店で販売していた。そしてハニ族の民族衣装を既製服に仕立てたものが売られ、ハニ族だけでなくタイ族やクーツォン族、それにアールー族の女性も買い求めていた。

また各民族の女性が毛糸を編み物の材料としてではなく、アクセサリとして使用するため、その好みにあわせてさまざまな色の毛糸を売る店が多い。女性の民族固有の衣装着用率がおよそ84%に達していることが示すように、者米谷では都市で一般的になった服装はまだ流行していない。このことが毛糸などの工業製品だけでなく、ハニ族が販売する藍染めの布が市で流通している背景になっているのであろう。

電気関係の商品では、懐中電灯、電球、電池、電球ソケット、電気コードを扱っている店が多い。者米谷では、公道沿いのタイ族やジョワン族の村には電気が通じている。しかし山地のほとんどの

村では、電力を2～3軒が共同して使う簡便な水力発電に頼っている。電気コード等の部品は、自分たちで電線をひくために必要である。またこの水力発電による電圧は安定しておらず、停電も日常でおこる。一歩家を外にできれば、外灯はなく懐中電灯と電池は必需品である。

生活用品類のなかで最も種類が多いのは、農具や耕作それに生活一般に関わる道具・工具類であった。ノコギリ、スコップの先、クワ先、金バサミ、ねじ回し、南京錠といった商品の他に、蹄鉄、手回しフイゴ、トラップといった金物類も多い。山地の村には自動車が通れる道路はなく、荷物の運搬は人カラバに頼っている。そのためラバにつける蹄鉄は必需品である。プロパンガスがあるのは、町のごく一部の食堂だけであり、現在も煮炊きは薪に頼っている。手回しフイゴは火を素早く起こすのに欠かせない道具である。トラップは、金物類のなかで最も多くの露店で販売されていた。現在では野生の動物狩猟は禁止されている。しかし、水田のコメや山地の畑で栽培するキャッサバやトウモロコシなどの作物を食べにくる野生動物が多く、これを駆除する必要からトラップを使う頻度が高いことが予想される。このように市で販売されている商品を分析し、さらに今後者米谷に住む9民族が、どのような商品を必要としているかを調査することで、この地域における人びとの生活世界の具体的な実像にせまることが可能になると考えられる。

露店にはこうしたさまざまな商品が並べられ、雑貨店など一見するとどの店の品揃えも同じようにみえる。今回の調査で市では321種類の商品が販売されていた。このうち1店もしくは2店だけでしか販売されてない商品が、全商品の実に半数近くにのぼる。各露店は、他店とは微妙に商品の品揃えに変化をもたせ差異化をはかっている。市の露店の全体の集合が、いわば「総合百貨店」を構成して品物の種類の多様性を生み出し、この効果が人びとを市に引き寄せる魅力の1つになっているのであろう。

さて市にはさまざまな商売を営む露店があるが、店の種類によっておよそ営業する場所が決まっている。本通が公道に交差する市の入り口付近には、家畜販売や飲食店が集中し、横通には果物、野菜、肉、魚といった食品を販売する露店が多い。本通は雑貨や衣料を扱う露店を中心に、タバコ、酒などの店が並ぶ。露店はそれぞれの店の種類が、混然と無秩序に出店しているのではなく、同じ種類の店が集まって分布にグループがあることがわかった。

また民族によって経営している露店の種類に違いが認められた。常設店の経営は、漢族とタイ族に限られているが、そのなかでもタイ族の店数は漢族と比較するとはるかに少ない。雑貨を扱う露店もほぼ漢族によって経営が独占されている。ところが果実を販売する露店は、ほぼすべてがタイ族によって占められている。一方野菜を販売する露店はアールー族がおよそ半数を占め、ついでタイ族が多い。衣料販売は、漢族、クーツォン族、タイ族の順に多いという傾向をもつ。そして、ヤオ・ハニ・ジョワン族が経営する露店は極めて少ないことがわかった。このなかで漢族が経営する雑貨店で扱う商品は、プラスチック製品や金物類といった工業製品が主であり、者米谷以外から輸入されたものである。つまり都市と結ぶ商品の流通は、ほぼ漢族が独占しているといえる。

タイ族の村は河谷平野の公道上に展開し、しかも山地の他の民族に至る道は必ずタイ族の村に通じている。つまり者米谷における、東西および山地に至る交通の要衝の地をタイ族が占めていることになる。ブタ肉は、河谷平野のタイ族だけでなく山地の各民族からも集められる。ブタ肉の販売をタイ族が一手に担っている背景には、おそらく歴史上、者米谷内の域内流通をタイ族が掌握して

きた可能性を示唆していると考えられる。

販売する商品が各民族で異なるのは、民族ごとの生業の違いにも関係しているのではないかと予想している。例えば露店で野菜を売るのは、アールー族とタイ族である。しかしアールー族が売る野菜はすべて、村の周囲の菜園畑で露地栽培されたものである。一方タイ族が販売する野菜はトウガラシとピーマンを除くと、勳拉や金平などの市で仕入れて、それを者米の市で販売している。聞き取り調査によるとタイ族は伝統的に野菜作りに熱心ではなく、1950年代以前の者米の市においても、アールー族が主として野菜を販売していたという。

タイ族は、河谷平野という水田耕作をおこなうのに有利な土地を独占してきた。そのため標高1,000メートル以上の山地に住み、棚田による水田や焼畑耕作と狩猟採集を複合的にこなってきたヤオ族や、焼畑、狩猟採集を生業とするクーツォン族と比較すると格段にコメの生産力が高かった。現在でもタイ族は、河谷平野の水田で2期作をおこなっている。1期作目はハイブリッド米を生産し、それをすべて売って現金収入にあて2期作目には在来種の糯米を植え自家米用にする。

今回は市以外の各民族間で、直接おこなわれている交易についてふれなかった。しかしクーツォン族は、現在でもタイ・ハニ・ヤオ族と籐で編んだ籠をコメまたは現金と交換している。1950年代の調査によれば、クーツォン族は市を通じてではなく、イノシシ、シカ、リスといった野生動物の肉でもって、コメや衣服と直接に交換していたという。市における各民族の買い物客のうち、ハニ族やタイ族の比率が高く、村数が多いのにも関わらずクーツォン族の比率が低いことも、市における物の売買の習慣が、各民族によって過去においても現在においても異なっていることを予想させる。いずれにしても河谷平野と山地とでは、生態的な環境が相当に異なる。高度による各民族の棲み分けは民族間の生業に差異を生み出し、市において売買する商品の差にもつながってきたと考えられる。

者米の町では市がたたない日にも常設店が開店しているが、客足は非常に少なく閑散としている。者米に大勢の人が集まるのは市の日だけである。ではなぜ6日ごとに市を開催する必要があるのだろうか。自動車が利用可能な東西の公道周辺の村では、20キロ以内が者米の市を利用する範囲だと考えられる。そして徒歩、または徒歩と自動車を利用して市に通える村は、片道3～4時間、往復で6～8時間の範囲内である。最も遠くに位置する村では、とても町まで日常的に買い物に行くことは不可能である。市の滞留する人数が午前11時にピークに達し、その後急激に減少するの、村に帰る時間を考えると午前中に買い物をすませる必要があるからだろう。交通の不便さが、市のたつ1つに要因になっており、商品を買う側も売る側も、一定の日を設定するほうが便利だということになる。

この地域の市の歴史を簡単に述べておきたい。人びとによる6日ごと市の日取りは、現在では太陽暦によって認識されている場合が多い。しかし本来は、十二支の組み合わせによって決まっていた日取りである。十二支の前半と後半の、子と午の日、丑と未の日、寅と申の日、辰と酉の日、卯と戌の日、巳と亥の日という6つを組み合わせる。各市の開催日は、組み合わせのどれかに相当させることで、6日に1回の市日を決定できる。例えば者米の市は、丑と未の日で開催される市として、文献によれば少なくとも17世紀の清代までさかのぼることができる。金平県内ではこの十二支による6日ごと市は、1950年代まで続いてきた。ところが1960年の集団化の開始とともに6日

ごと市は廃止され、商品の販売はすべて人民公社が管理し1週間に一度の市が開催されるようになる。6日ごとの市が者米で再開したのは1989年からである。者米谷に市がたつ背景にはさまざまな要因が絡んでいると予想されるが、1989年から再び6日ごと市が復活した事実は、現在の者米谷の市を調査することで、定期市そのものの発生とその要因を探ることが可能だと考えられる。

最後に、市の機能に関わる問題について述べておきたい。者米で市が開催中に、買い物をほとんど何もせず町をただぶらぶら歩き、タバコや酒の試飲だけを楽しむ村人の姿をよくみかける。また、市で出会った知り合いと食堂で飲み食いを楽しむ姿も多い。アール族の女性は、質問をすれば片道3～4時間かけて野菜を背負い市に売りに来るのがどれだけ重労働かを切切と述べる。しかしハニ族の布売りや品物の選択と価格交渉に熱中するあまり、本業の商売がおろそかになる姿は、市という存在が必要な物を売買するだけではなく、彼女たちにとっても楽しみやよろこびの場になっていることを予感させる。

人びとの楽しみや遊びといった行動を、数値化したり論証したりすることは難しい。しかし市における人びとの意味がないようにみえるこうした風景のなかに、市に人が引き寄せられる動機を解き明かすヒントが隠れているように思える。市の研究は、生産、交易、消費、交流、そして人間の生きる楽しみやよろこびといったさまざまな問題を内包している。者米谷の各民族の生業を今後明らかにしつつ、市を中心におこなわれている交易の実態を探ることが、この地域の多民族の生活世界を生き生きと描き出すことにつながると考えられる。そして中国の周辺地域に位置する者米谷のミクロの生活世界がどのように変容してきたのかを描き出すことが、結果として国家の周辺地域で歴史上繰り返しおこってきた地域社会の変容を、マクロな視点から描き出す道に通じると考えている。

謝辞

フィールド調査は、現地の協力なくしては成立しえない。現在調査が進行している者米谷の人びとおよび、者米拉祜族郷の郷政府の方々に感謝したい。また中国で長期の調査が可能になったのは、北京の中央民族大学民族学院・院長である楊聖敏教授の多大の協力があつたからである。彼のネットワークを通じて、雲南省での雲南民族大学・副学長である和少英教授との共同研究が可能になった。中央民族大学と雲南民族大学の双方には深く感謝する。

また今回の市の現地調査においては、雲南民族大学の刀潔助教授に、市での中国語雲南方言とタイ語の通訳をお願いした。そして今回の者米の市調査は、篠原徹さんとの共同研究だったことをこたわっておきたい。

「はじめ」に述べたように、現在を生きる人びとの生活世界を研究することは、中国周辺地域の歴史を理解する上でかかせない作業だと考えている。こういった視点をえたのは、日本学術振興会未来開拓研究推進事業（代表、東京大学大塚柳太郎教授）によって進められた海南島のリー族調査によってであり、その調査にさそってくれたのが海南島プロジェクトリーダーの篠原徹さんであった。海南島の調査にも参加していなければ、おそらく新たな視点と方法論の模索も育まれなかったであろうし、雲南省における調査も実現しなかっただろう。

私は海南島の調査を利用して、すでにかかなりの数の論文やエッセイ等を発表してきた。しかしこ

れまで私に大きく学問の方向転換の契機を作り、人類学的調査の方法をフィールドで身をもって示し、論を組み立てていく過程で膨大な議論の時間をさき、さらに書き上がった論文に対して適切な意見を述べてくれた篠原徹さんに対して謝辞を書いたことが一度もなかった。ここにこれまでの非礼を詫び、記して深く感謝の意を表したい。

註

(1)——マリノフスキー以降、アメリカの人類学者が、メキシコにおいて市の調査を継続していく。その研究は黒田悦子によると、市の機能を詳細に調査しつつ、市が農村から生産物を搾取する装置をはたすといった、メキシコにおける農村がかかえる経済構造の問題を明らかにしようとする方向へと向かったという〔マリノフスキー 1987〕。

(2)——中心理論とは、クリスタラー (W. Christaller) が提唱した理論で、中心地点およびその補完区域から成る結節地域・市場圏の垂直的集合について論じたもので、各上位市場圏は、すぐ下位の市場圏をいくつか含む階層的配列を示しているという学説のことである。

(3)——標準市場とは、農民が日常的に利用する市場のことである。スキナーによれば伝統中国では、標準市場が社会の中核をなしていたという。

(4)——者米拉祜族・老集寨郷は従来一つの郷であったが、1978年に者米拉祜族郷が独立し二つの郷に分離した。

(5)——クリスチャン・ダニエルスが指摘するように、後から入植してきた漢民族が少数民族であり、現在この地域の民族に対して使用されている「少数民族」という言葉は適切なものではない〔ダニエルス 1999〕。また、「民族」という言葉自体があいまいである。むしろ「エスニック・グループ」という方が適切である。しかし叙述の便宜上、本稿では「少数民族」という言葉を使用する。雲南省に居住する26の民族と雲南省特有の少数民族15が居住する。雲南省および省外にも居住する民族は、漢族、彝族、チワン(壮)族、ミャオ(苗)族、回族、ヤオ(瑤)族、チベット(藏)族、スイ(水)族、モンゴル(蒙古)族、ブイ(布依)族、満族である。省内特有の民族には、ペー(白)族、ハニ(哈尼)族、タイ(傣)族、リス(傣仂)族、ラフ族、ワ(眠)族、ナシ(納西)族、チンポー(景頗)族、アチャン(阿昌)族、プミ(普米)族、ヌー(怒)族、ドアン(德昂)族、ジノー(基諾)族、トールン(独竜)族がいる。

しかし雲南省内特有の民族というのは、中国国内の雲南省内に特有であるという意味であり、中国外の東南アジアに居住する民族も少なくない。その数は、ヤオ、チンポー、ハニ、プーランなど16の民族におよぶ。

26の民族は、平面的だけでなく、高度によってもある程度の棲み分けがおこなわれている。一般的にいわれるのは、高原の盆地や河谷平野などには、タイ、ソウ、回、満、ペー、ナシ、蒙古、アチャン、ブイ、スイ族が居住する。中山間地域には、ハニ、ヤオ、ラフ、ミャオ、ワ、チンポー、プーラン、ドアン、ジノ族が居住する。さらにそれよりも高度が高い高山では、リス、チベット、プミ、ヌー、トールンなどの民族が居住するといわれている〔謝 1999〕。

(6)——漢字表記は、それぞれ傣(タイ)、哈尼(ハニ)、瑤(ヤオ)、古聰(クーツォン)、阿魯(アールー)、苗(ミャオ)、壮(ジョワン)、哈備(ハーベイ)である。アールー族は、彝(イ)族の一支族であり、クーツォンは拉祜(ラフ)族の一支族である。本稿ではカタカナ表記で民族名を表記する。

(7)——者米拉祜族郷では、1998年から「155工程」という「扶貧制作」が実施されている。1万人の貧困ラフ族にたいして、5年間で5千人を貧困から脱出させるという政策である。貧困脱出の基準は、年間一人あたりのコメ(粳)などの穀物が450キロ以上、現金収入だと600元(2002年12月現在でおよそ8,000円)である。

具体的には、本来、焼畑で陸稲、キャッサバ、トウモロコシに頼っていた生業を、水田によるコメの自給と、換金作物の植え付けを奨励するという政策である。

そのため山地の水田の開墾がむづかしい場所から、村を移住させている。村の建設も政府の補助によっておこなわれている。さらに水田開墾とコメの植え付けの技術、鋤、鍬などの道具類や、肥料なども援助している。

(8)——国家が公定する56の民族(漢族を含む)に含まれない民族、独特の言葉をしゃべり、かつては村内婚しかおこなわれていなかったという。金平県だけではなく、雲南省においてハーベイが居住するのはこの村だけだといわれている。

(9)——米の粉で作ったメン。

(10)——老集寨郷の阿米籠、中寨などで直線距離にするとおよそ5キロである。しかし村は標高およそ1,300mあり、道も曲がりくねっている。筆者も村まで歩いて

みたが、片道5時間かかった。

(11)——耕耘機の後ろに人が乗れる荷台を付けた乗り物。

(12)——普段から民族衣装を着ているので、普段着とよぶべきであろう。しかし市での買い物客の特徴を知る上で、区別が必要なのであえて「民族衣装」という言葉を使う。

(13)——現地では、「煙筒」という。直径およそ10~12センチ、高さ60センチほどのタケを使う。下から20センチほどのところに直径1センチほどの穴をあけ、ここに長さ10センチほどの細いタケを入れる。タケの中には水入れ、刻みタバコはこの細いタケの突端に押し込み、火をつけて吸う。

(14)——ただしハニ族は、露店ではなく、藍染めの布を背負い籠に入れ、市内を移動しながら販売している。かなりの数にのぼるのだが、今回の調査では、正確にその人数を把握していない。

(15)——サンダルは鼻緒のないものであり、スリッパは鼻緒のあるものをさす。

(16)——中国語では、「粑粑」と書く。糯米を餅状にして丸く薄くのばし、炭火や鉄板の上で焼いたものをいう。中に餡を入れる場合もある。麗江など雲南省の北部地域では、コムギやトウモロコシの粉を練って作ったものもやはりパーパーという。

(17)——この調査は、12月15日の市におこなった。

(18)——市に集まる各民族の人数を比較するのだから、者米拉祜族・老集寨郷の各民族の人口を対比させるのがもっとも適切な方法である。しかしクーツォン族以外の各民族の個別の人口は、公表されていない。そのためここではやむをえず、村を民族ごとに分類し、それを人口比の代わりとした。

(19)——南科の所在地。今回は市の開催日を把握していない。

参考文献

- 天野元之助 1952 『中国農業の諸問題』技報堂
 天野元之助 1940 「現代支那の市集と廟会」『東亜学』2
 石田 浩 1980 「旧中国農村における市場圏と通婚圏」『史林』63—5
 雲南省金平苗族瑶族傣族自治州志編纂委員会 1994 『金平苗族瑶族傣族自治州志』三聯書店
 雲南省志編纂委員会 2001 『雲南省志—地理志—』雲南人民出版社
 加藤 繁 1936 「清代に於ける村鎮の定期市」『東洋学報』23—2
 クリスチャン・ダニエルス 1999 「少数民族の歴史をどうみるか—近年の研究紹介をかねて—」『アジア遊学』9号
 黒田明伸 2003 『貨幣システムの世界史—(非)対称性をよむ—』岩波書店
 謝 蘊秋・李 先緒 1999 『雲南境内的少数民族』民族出版社
 スキナー, G.W. 今井清一・中村哲夫・原田良雄訳 1979 『中国農村の市場・社会構造』法律文化社
 中国科学院民族研究所雲南民族調査組・雲南省民族研究所 1963 『雲南省紅河哈尼族彝族自治州, 金平県苦聰人社会経済調査』出版不明
 中村哲夫 1978 「清末華北の農村市場」野沢豊・田中正俊編『口座中国近現代史』二, 東京大学出版会
 西谷 大 2003 「イノシシとブター—海南島リー族の生業からみた家畜と野生動物利用に関する一考察—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第108集
 西谷 大 2004 「国家成立と周辺地域における自然利用の変容—アーキエスノロジー的方法論による一考察—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第119集
 増井経夫 1941 「広東の墟市」『東亜論叢』4
 B・マリノフスキー, J・デ・ラ・フェンテ著(信岡奈生訳, 黒田悦子解説) 1987 『市の人類学』平凡社

(国立歴史民俗博物館研究部)

(2004年4月6日受理, 2004年7月21日審査終了)

Towns with Markets: The Interaction of Various Ethnic Groups from the Perspective of Trade

NISHITANI Masaru

In this paper I discuss the market held once every six days in Jinping Miaozu Yaozu Lahuzu autonomous prefecture, Honghe Hanizu Yizu autonomous state in Yunnan Province. I first establish the structure of the market and then examine the impact that it has on regional society.

The structure of the market in Zhemigu where fieldwork was conducted has revealed the existence of four criteria for the formation of a regular market. They are the existence of surplus produce which villagers are able to sell, their inability to get to distant urban areas which are areas of large consumption because of unsuitable transportation, the capability to process produce at the market, and the need to transfer goods through intervention by vendors and the market network.

Regular markets are able to expand without recourse to national boundaries or ethnic groups. By incorporating the regional society into the market network the system of regular markets makes available regional produce and daily necessities brought in from outside.

It is not possible to look at the history of regions on China's periphery without looking at the influence of China. This influence has continued unbroken since the united Han state was established approximately 2,000 years ago. However, if we attempt to paint a clear picture of that influence using not only a political perspective but also micro perspectives related to the region, combining the special features of the market and this influence will most likely reveal the transformation that has occurred in regions on China's periphery.